第４回　今後の障害児入所施設の在り方に関する検討会	
令和７年12月2日	参考資料１

「障害児入所施設実態把握調査」の結果について

こどもまんなか
こども家庭庁

1．障害児入所施設の現状

障害児入所施設　指定事業所数、児童数

R7年4月1日時点

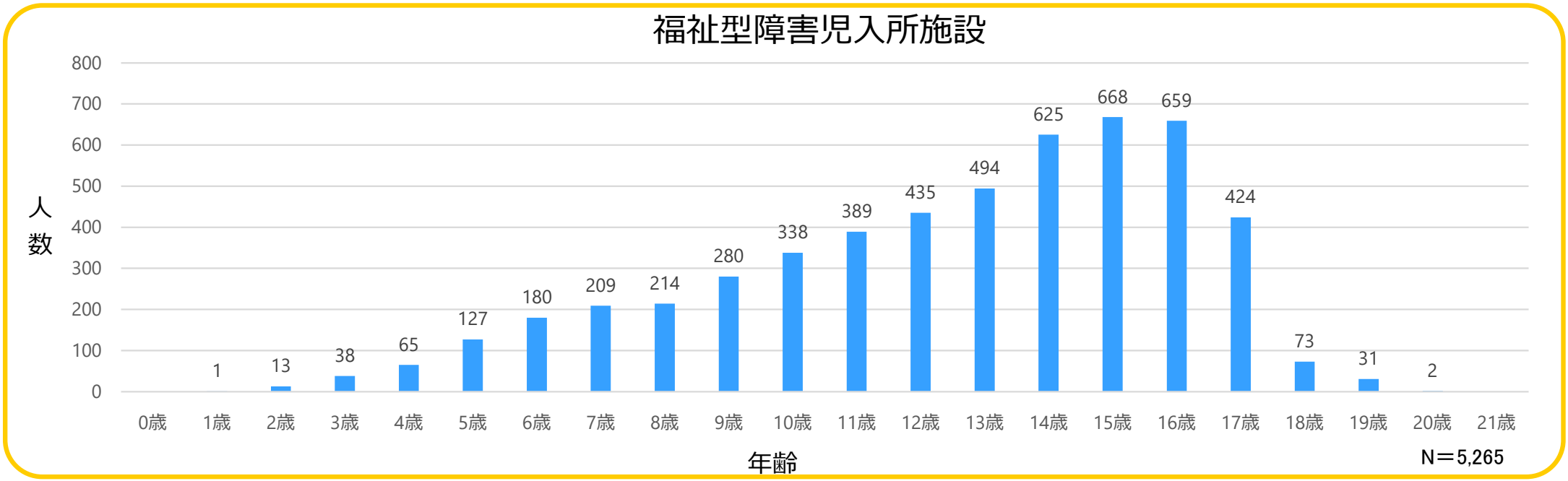
	指定事業所数	入所児童数（現員）		
		児童	18歳以上	合計
福祉型	233	5,159	106	5,265
医療型	235	2,500	113	2,613

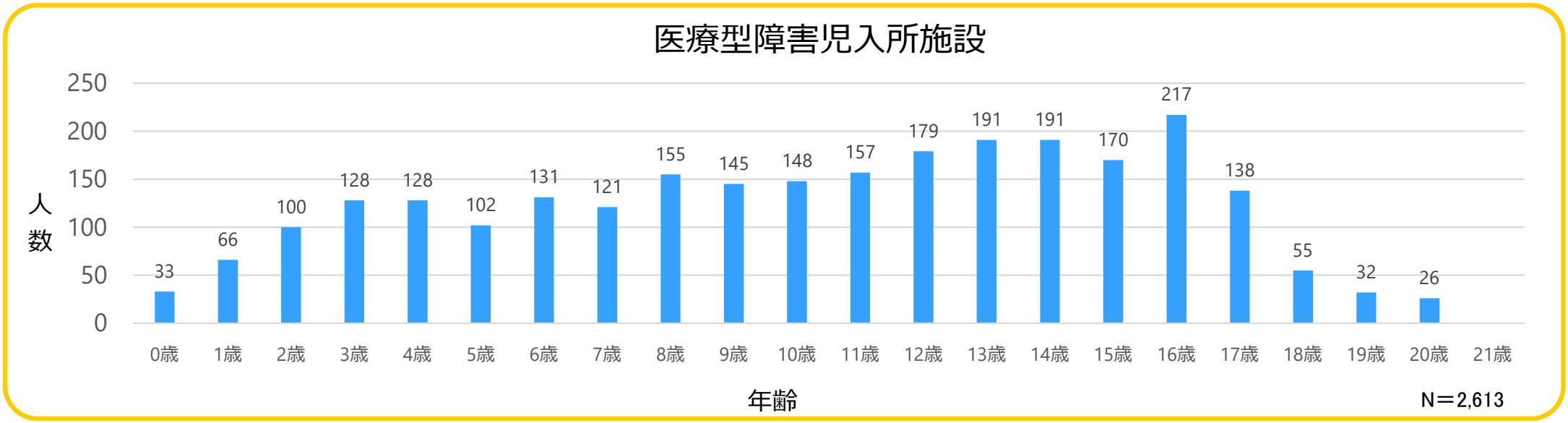
		福祉型					合計
		知的	自閉	盲	ろうあ	肢体	
指定事業所数		214	1	5	6	7	233
定員		6,471	40	100	141	167	6,919
現員		4,940	38	65	83	139	5,265
児童数		4,835	38	48	90	134	5,159
18歳未満	措置	3,396	8	45	72	112	3,649
18歳未満	契約	1,439	30	3	18	22	1,510
18歳以上		105	0	0	0	1	106
18歳以上	措置延長	54	0	0	0	1	55
18歳以上	契約延長	51	0	0	0	0	51

		医療型			合計
		自閉	肢体	重症心身	
指定事業所数		2	41（7）	192（71）	235
定員		78	1,998（174）	19,511（6,716）	21,587
現員		24	725（20）	18,326（6,216）	19,075
児童数		24	707（20）	1,769（545）	2,500
18歳未満	措置	5	267（4）	567（132）	839
18歳未満	契約	19	440（16）	1,202（413）	1,661
18歳以上		0	18	95（39）	113
18歳以上	措置延長	0	6	20（3）	26
18歳以上	契約延長	0	12	75（36）	87

※　重症心身障害児の定員には療養介護も含まれている。
（　）内は、指定発達医療機関の内数。
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

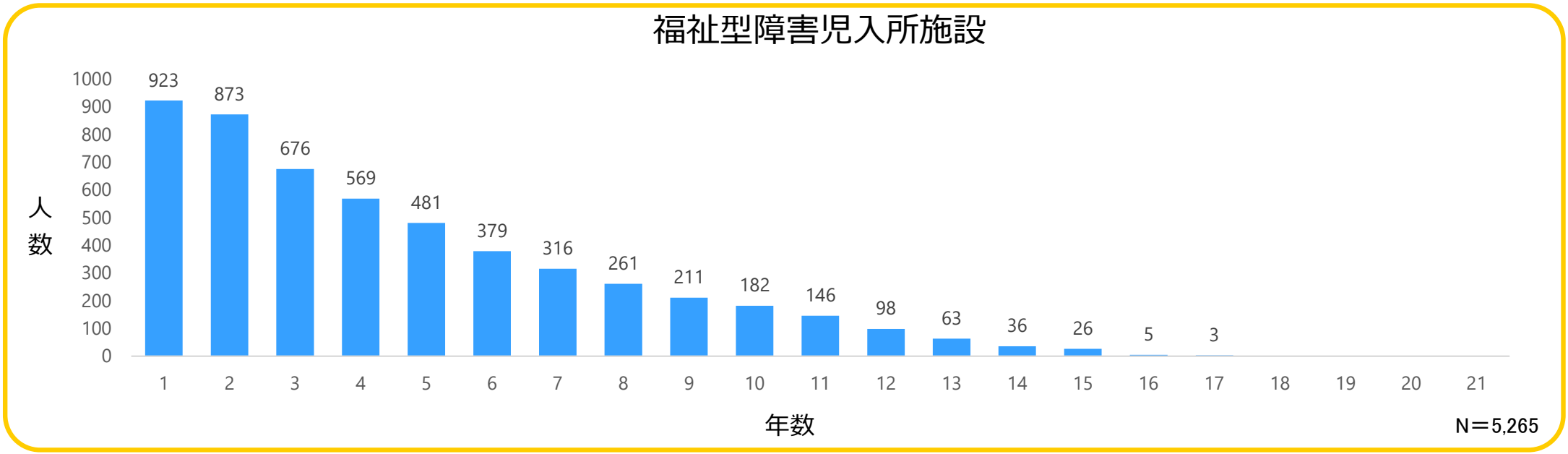
2．入所児童年齢

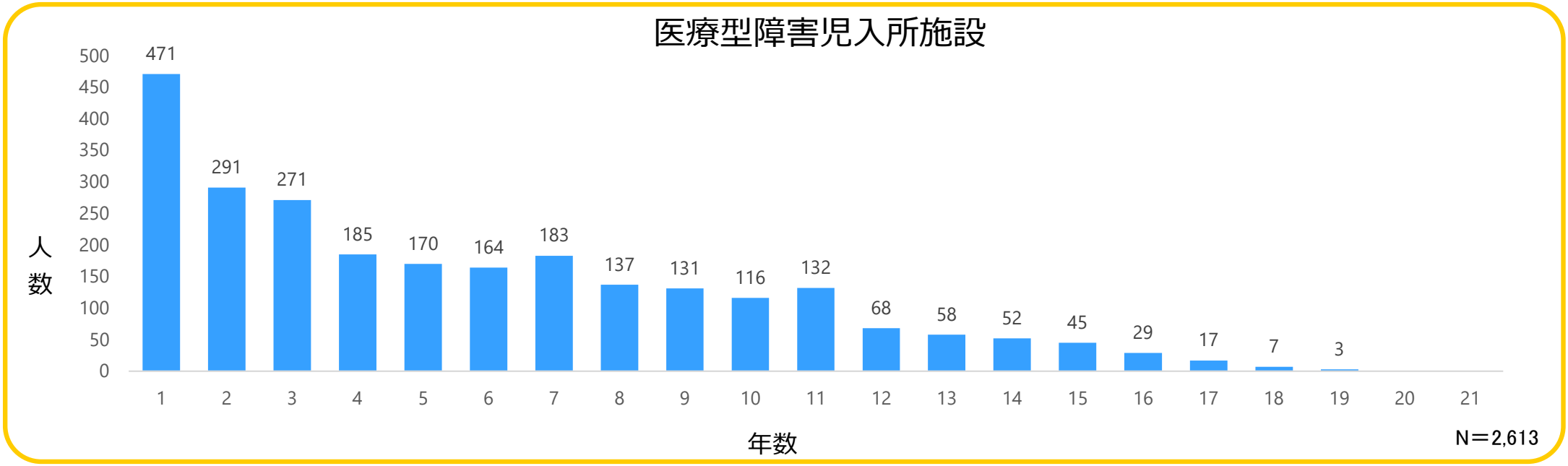




出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

３．在籍年数



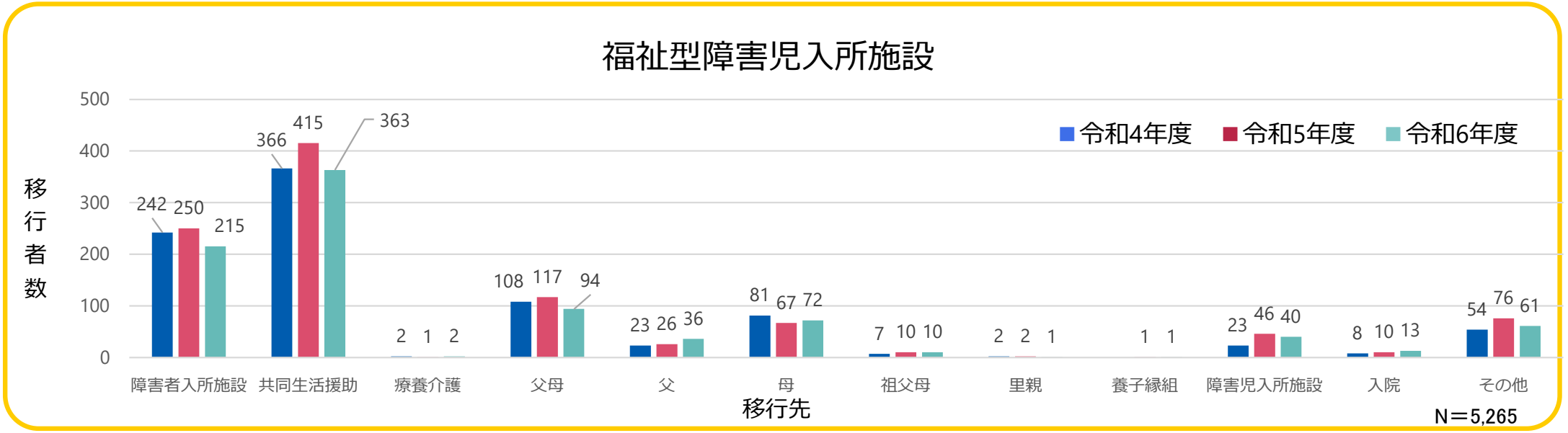


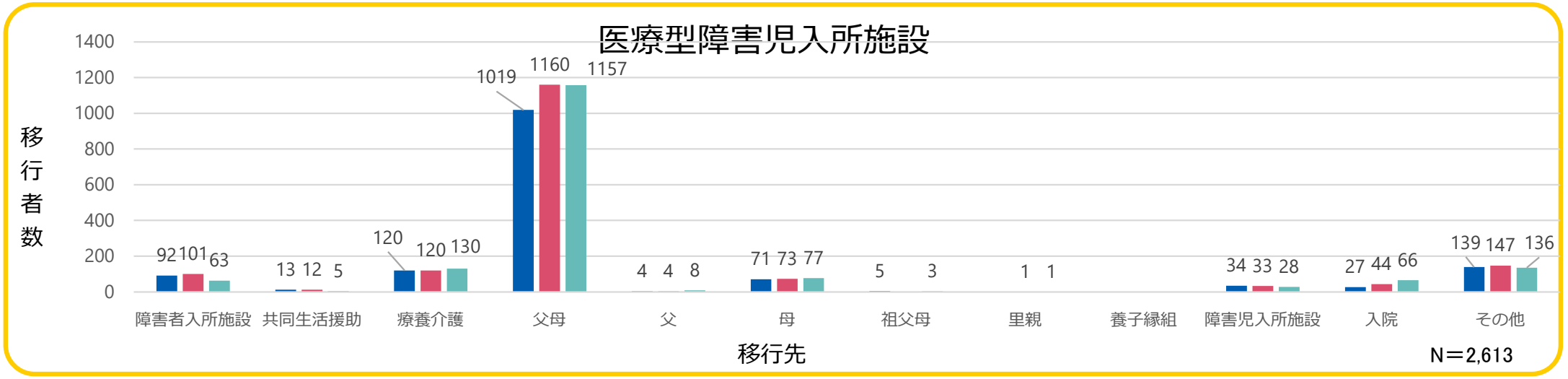
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

４． 過去３年間の移行状況

現状

○ 福祉型では、共同生活援助、障害者入所施設、父母の順に移行人数が多くなっている。
○ 医療型では、父母、療養介護、障害者入所施設の順に移行人数が多くなっている。





出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

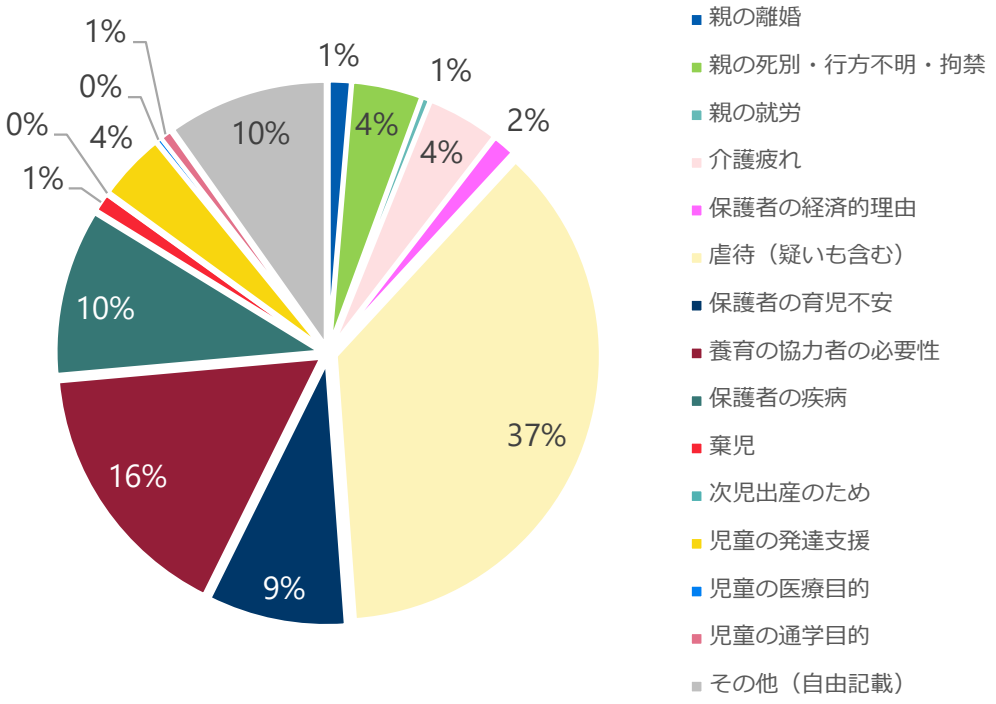
５． 入所理由【福祉型】

現状

○ 福祉型（措置）では虐待（疑い含む）の割合が高く、養育の協力者の必要性、保護者の疾病、保護者の育児不安の順に高い割合となっている。

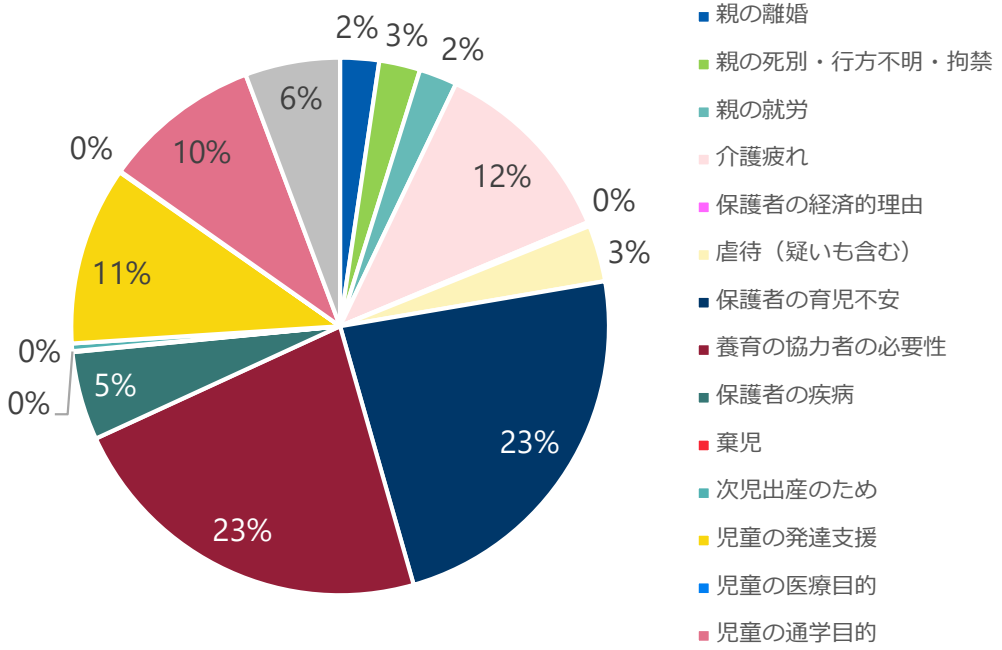
○ 福祉型（契約）では、保護者の育児不安、養育の協力者の必要性の割合が高く、次いで介護疲れ、児童の発達支援、児童の通学目的とした入所も高い割合となっている。

福祉型（措置）



N＝3,704

福祉型（契約）



N＝1,561

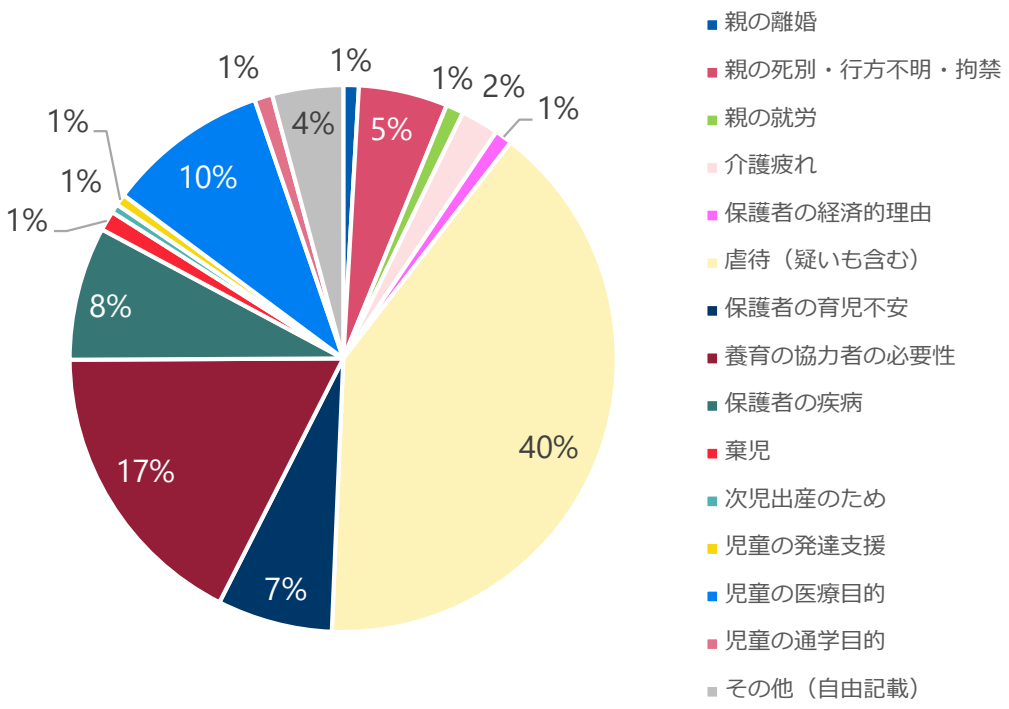
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

５． 入所理由【医療型】

現状

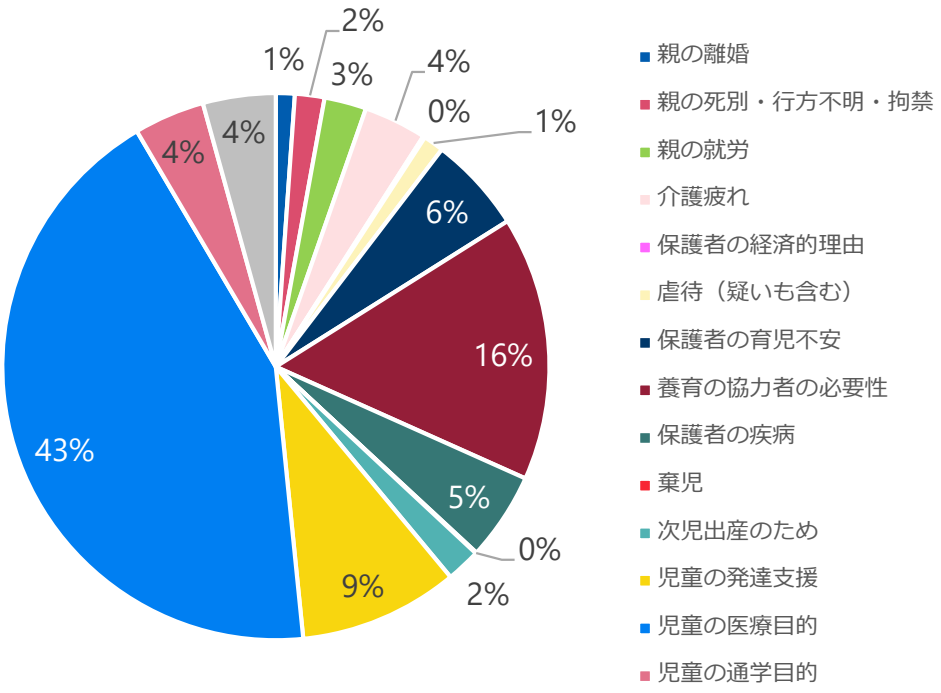
○ 医療型（措置）では、虐待（疑いも含む）、養育の協力者の必要性が割合が高くなっている。また、児童の医療目的、保護者の疾病、保護者の育児不安も高い割合になっている。
○ 医療型（契約）では、児童の医療目的の割合が高く、次いで養育の協力者の必要性の割合が高くなっている。

医療型（措置）



N＝865人

医療型（契約）



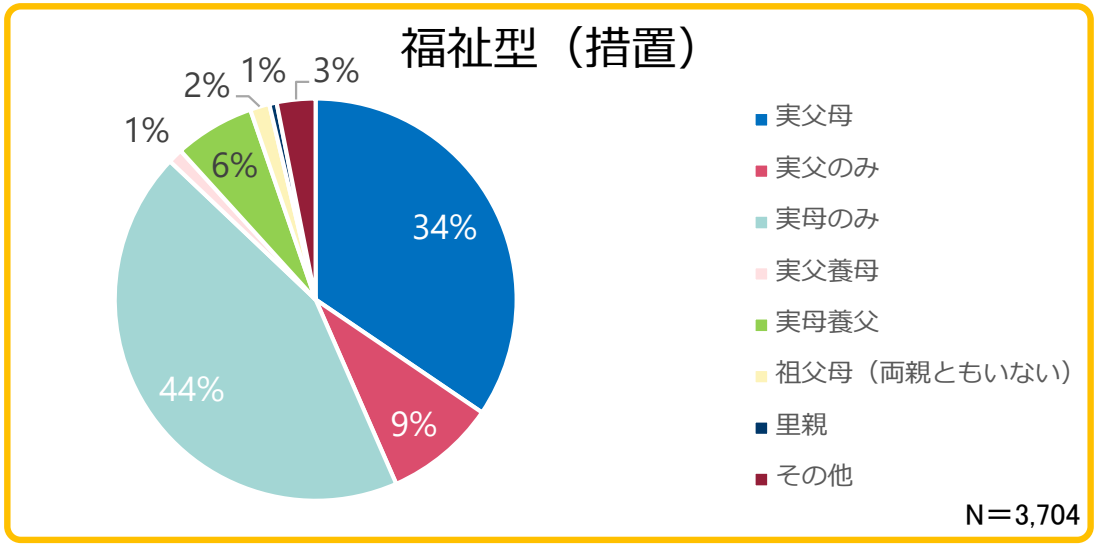
N＝1,748人

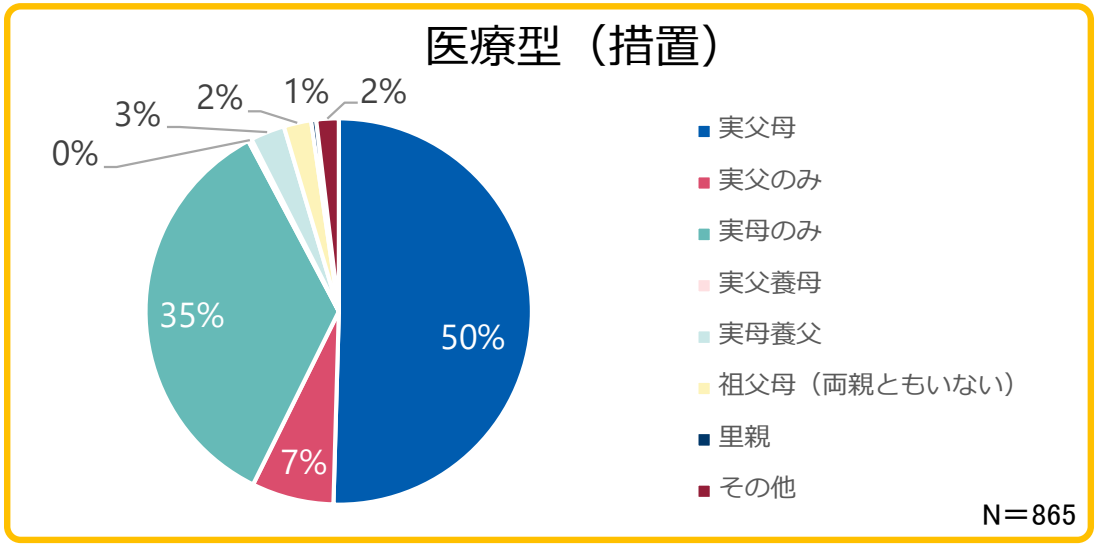
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

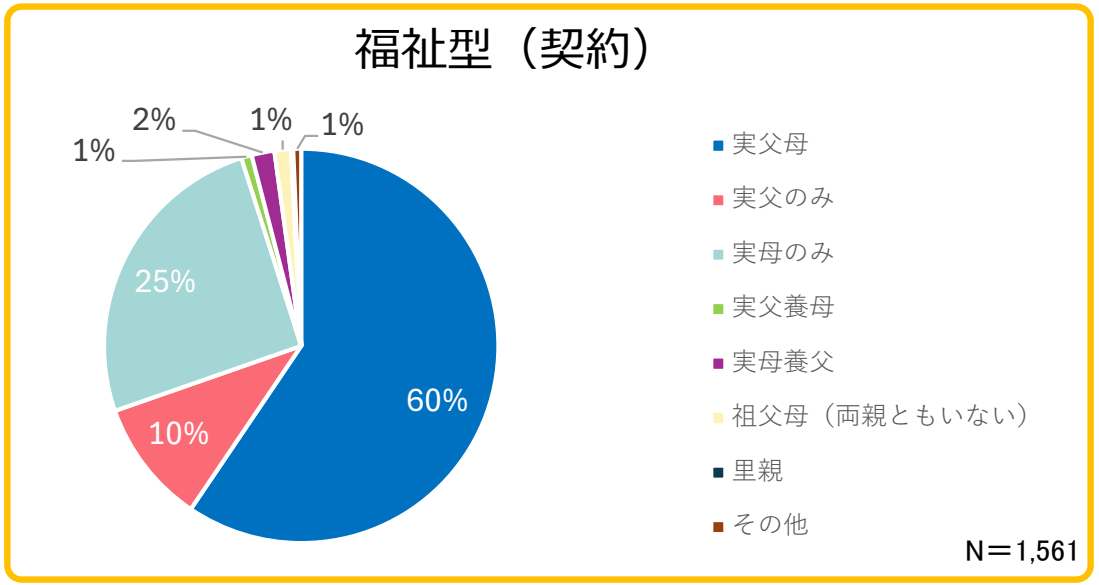
６． 入所時の保護者の状況

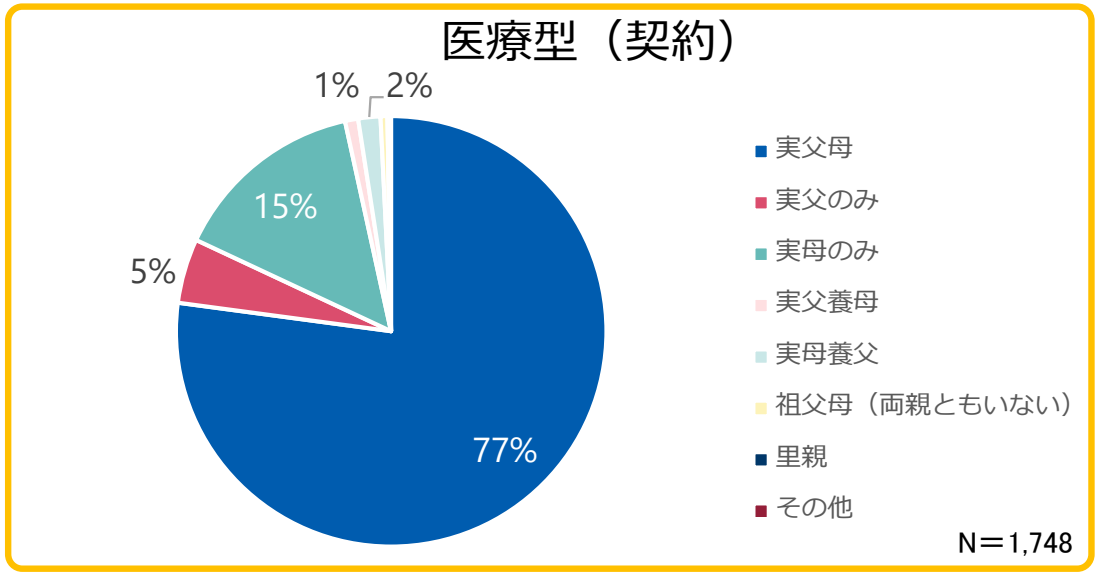
現状

○ 措置に関しては、福祉型は実母のみ、実父母の順に割合が高く、医療型は実父母、実母のみの順に割合が高い。
○ 契約に関しては、福祉型、医療型共に実父母、実母のみの順に割合が高くなっている。









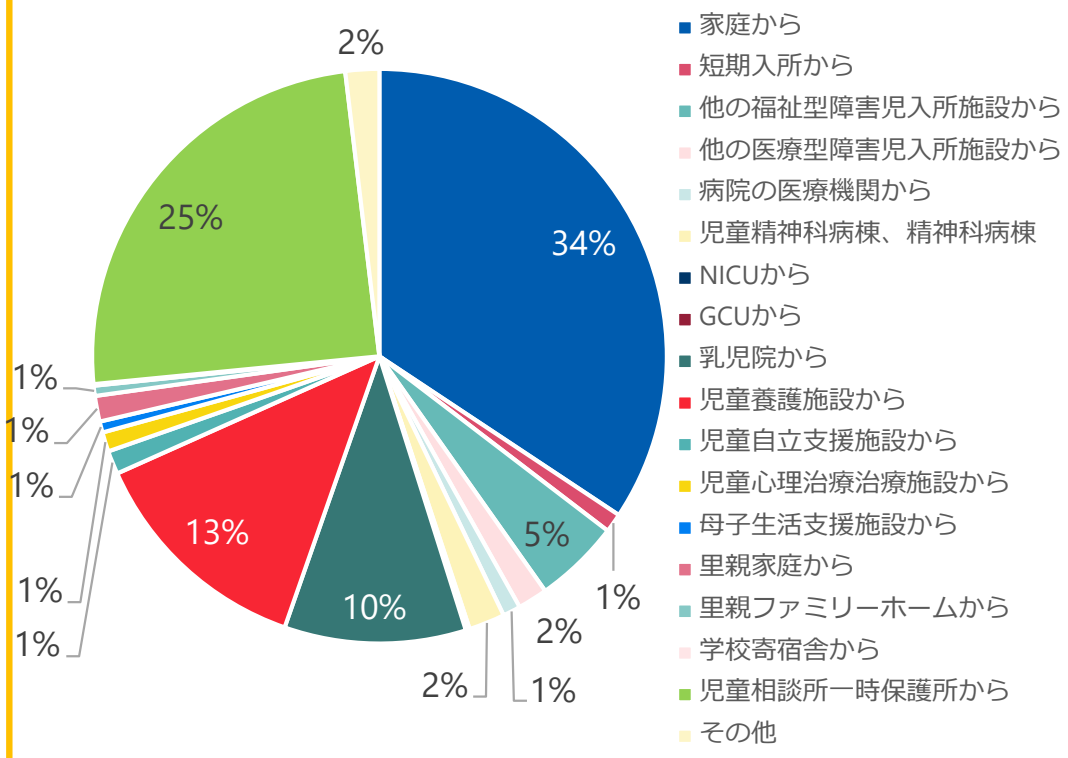
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

７． 入所経路について【福祉型】

現状

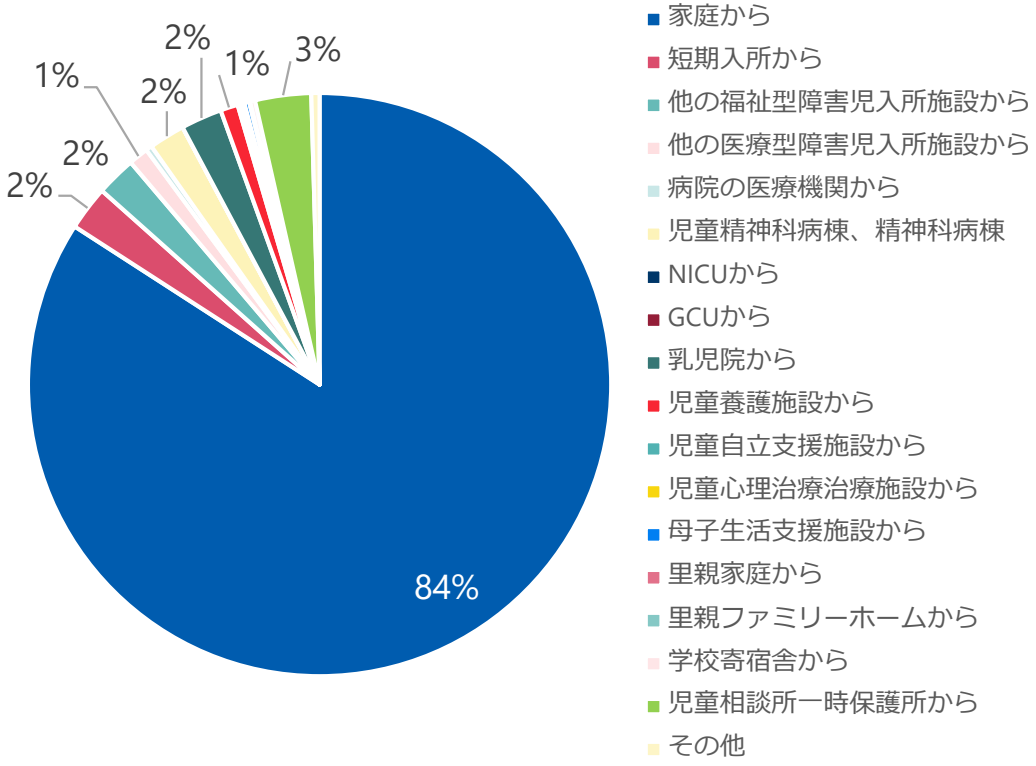
○ 福祉型の措置に関しては、家庭からと児童相談所一時保護所からの入所の割合が高く、児童養護施設、乳児院からの入所の順に割合が高くなっている。
○ 福祉型の契約に関しては、家庭からの入所の割合が高くなっている。

福祉型（措置）



N＝3,704

福祉型（契約）



N＝1,561

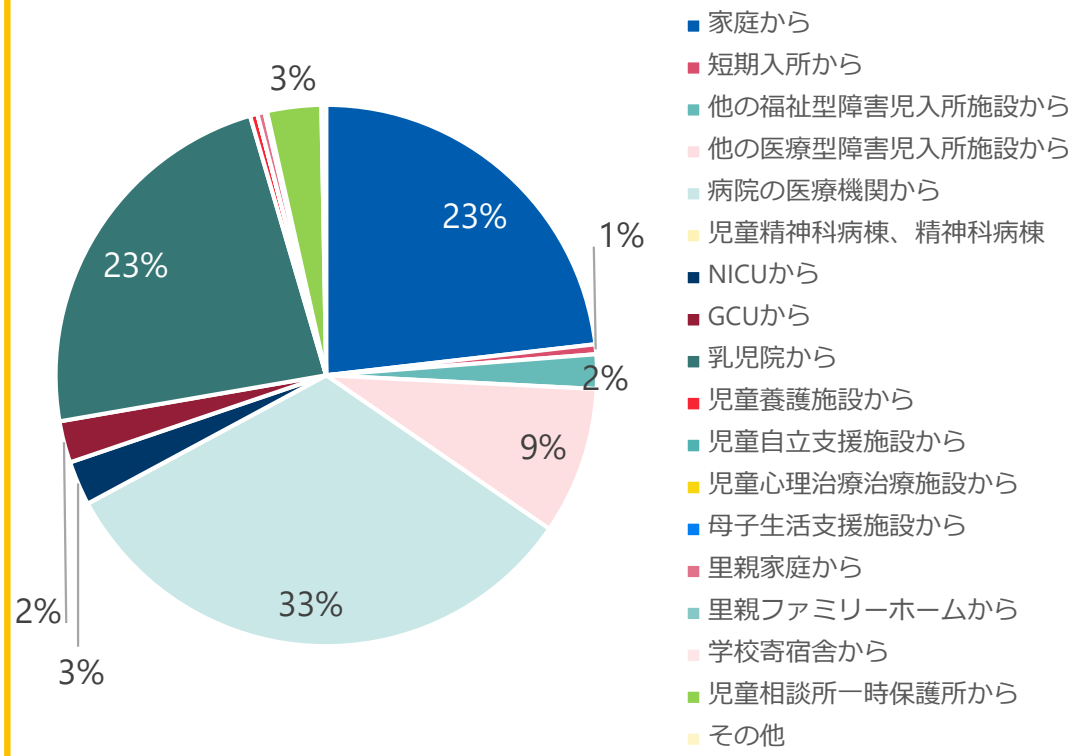
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

７． 入所経路について【医療型】

現状

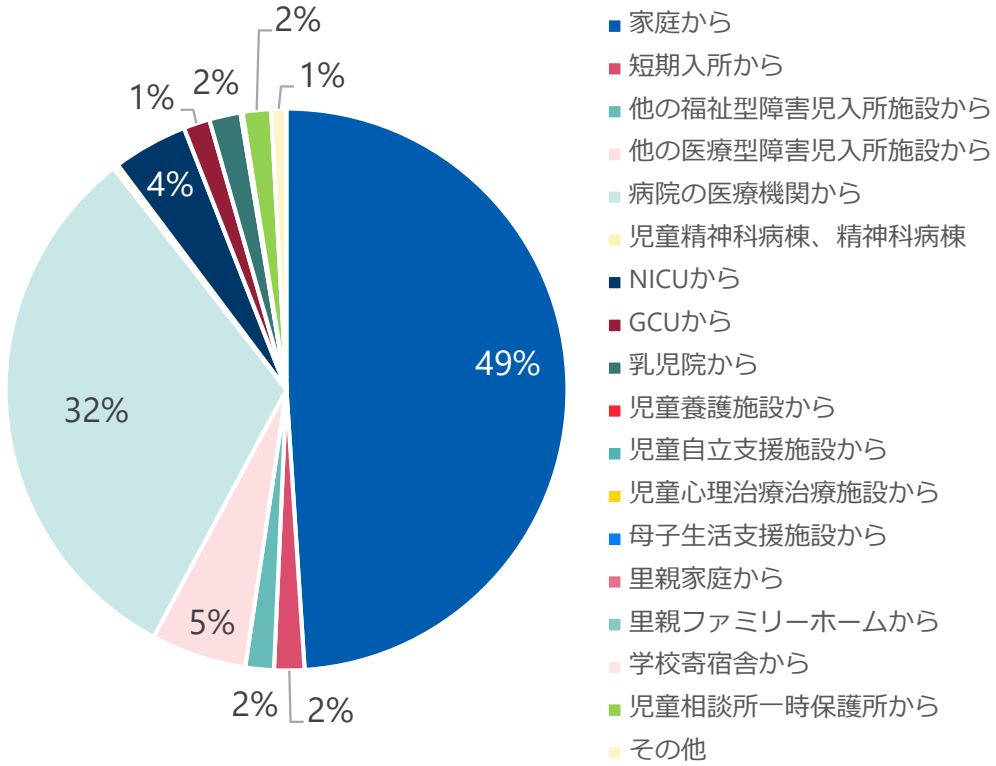
○ 医療型の措置に関しては、病院の医療機関、家庭、乳児院からの入所の割合が高くなっている。
○ 医療型の契約に関しては、家庭からの入所、次に病院の医療機関からの入所の割合が高くなっている。

医療型（措置）



N＝865

医療型（契約）



N＝1,748

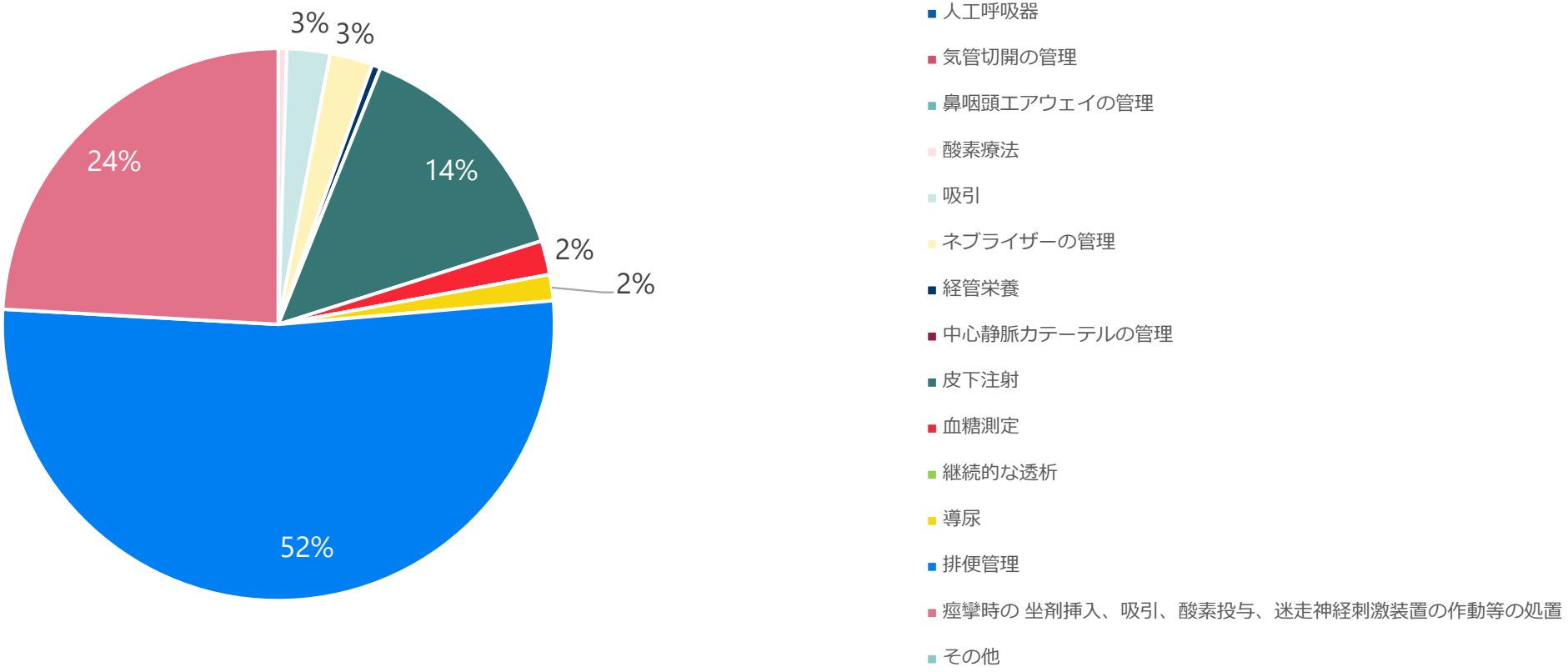
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

８．医療的ケア児について【福祉型】

現状

○　福祉型の医療的ケアの内容は、排便管理、痙攣時の坐剤導入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置、皮下注射の順に多くなっている。

医療的ケアの実施状況



N＝199

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

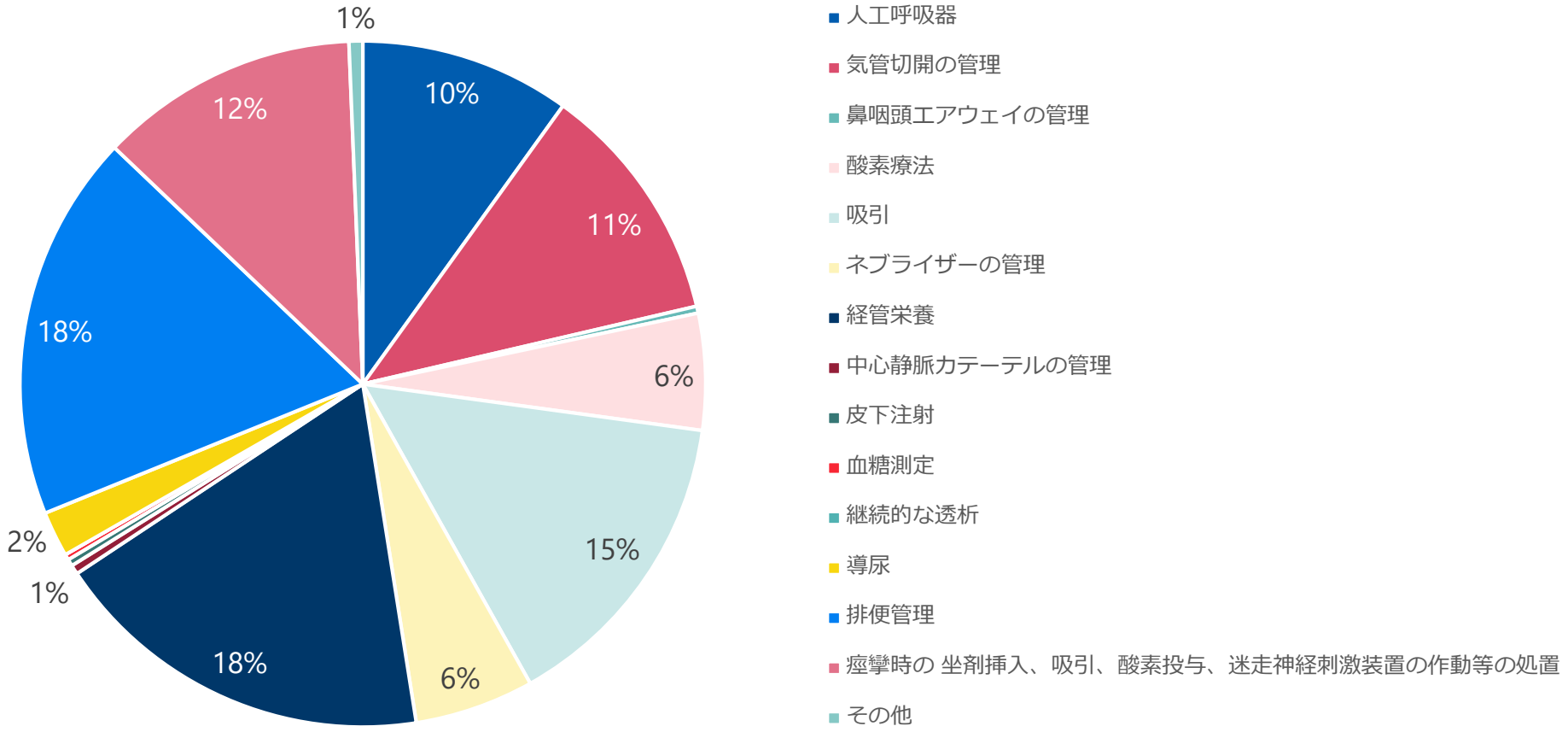
８．医療的ケア児について【医療型】

速報値

現状

○ 医療的ケアの内容は、排便管理、経管栄養が最も多く、吸引、痙攣時の坐剤導入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置、気管切開の管理、人工呼吸器の管理の順に割合が高くなっている。

医療的ケアの実施状況

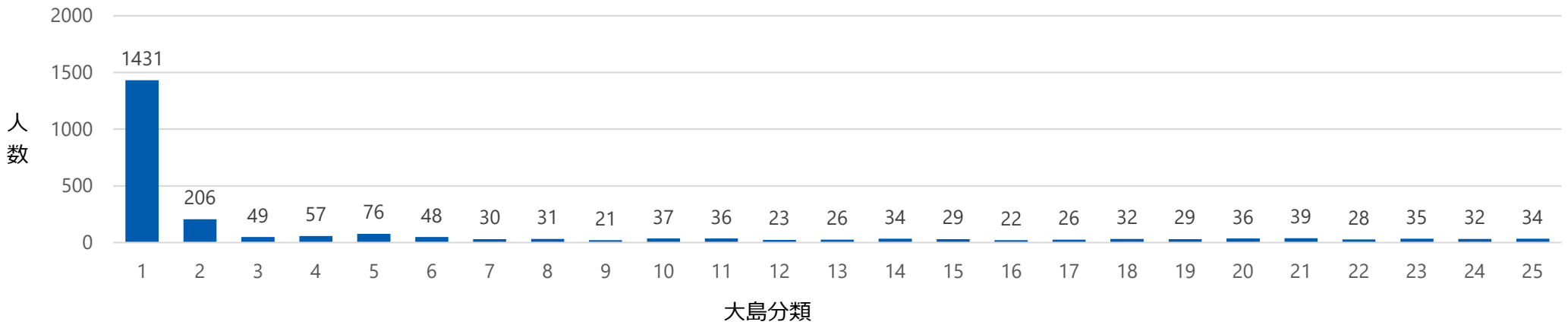


N＝8,587

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

９．大島分類による内訳【医療型】

医療型障害児入所施設（肢体不自由児・重症心身障害）における大島分類に基づく入所児童の内訳



出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

大島分類表

21	22	23	24	25
20	13	14	15	16
19	12	7	8	9
18	11	6	3	4
17	10	5	2	1
走れる	歩ける	歩行障害	すわれる	寝たきり

（IQ）
80
70
50
35
20
0

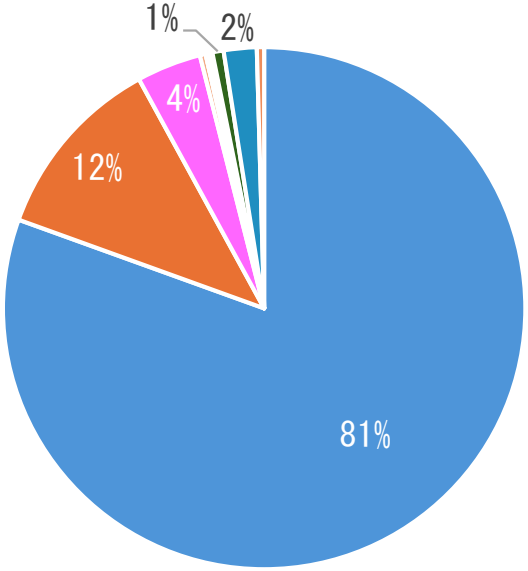
※元東京都立府中療育センター院長大島一良博士により考案された判定方法

１　1～4の範囲に入るものが重症心身障害児（者）

２　5～9は重症心身障害児の定義には当てはまりにくいが、
　①　絶えず医学的管理下に置くべきもの
　②　障害の状態が進行的と思われるもの
　③　合併症のあるもの
が多く、「周辺児」と呼ばれている。

10．入所児童の主たる障害種別【福祉型】

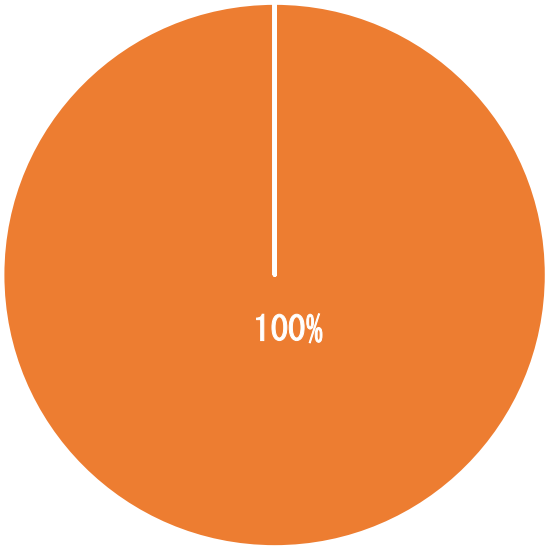
福祉型（知的）



- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝4,940

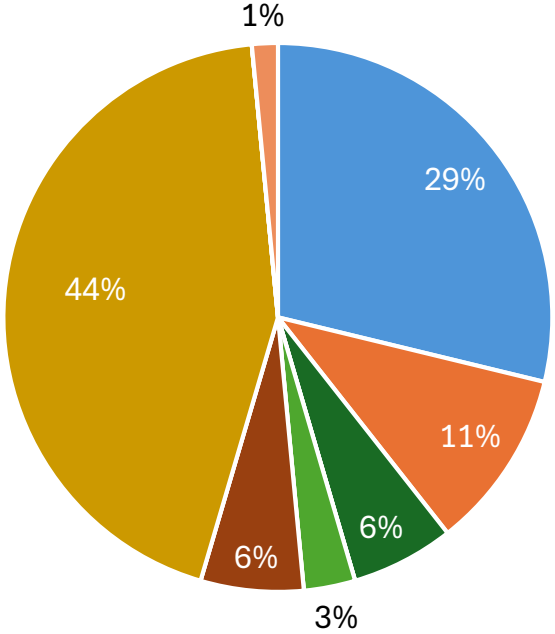
福祉型（自閉）



- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝38

福祉型（盲）



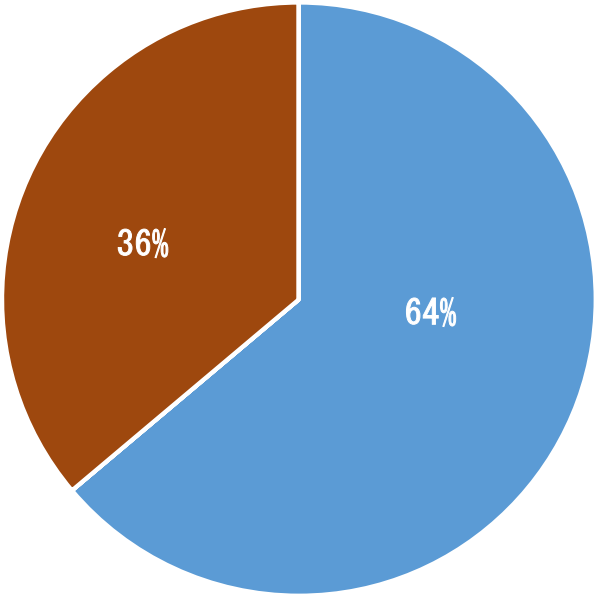
- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝65

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

10．入所児童の主たる障害種別【福祉型】（続き）

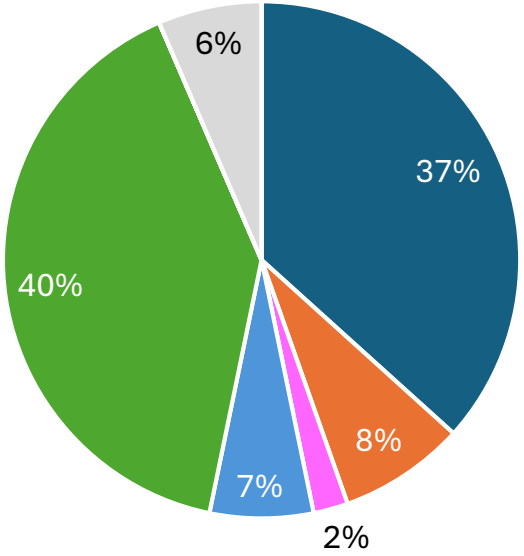
福祉型（ろうあ）



- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝83

福祉型（肢体）



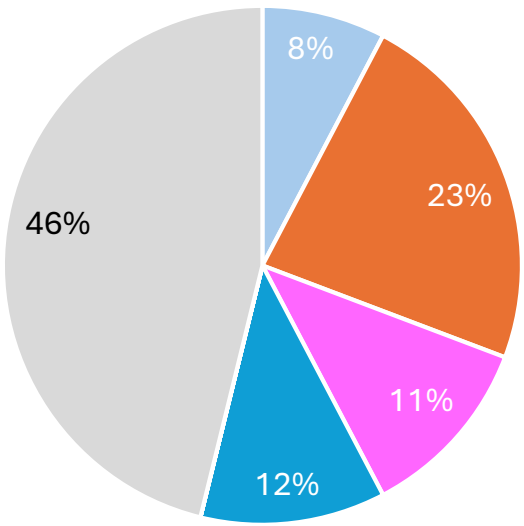
- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝139

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

10．入所児童の主たる障害種別【医療型】

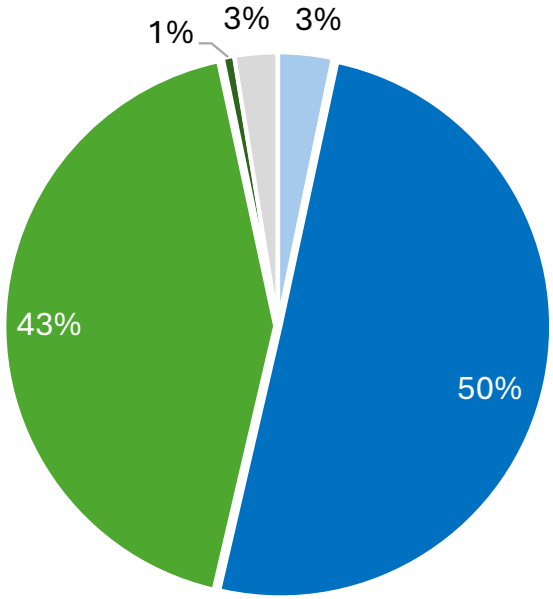
医療型（自閉）



- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝24

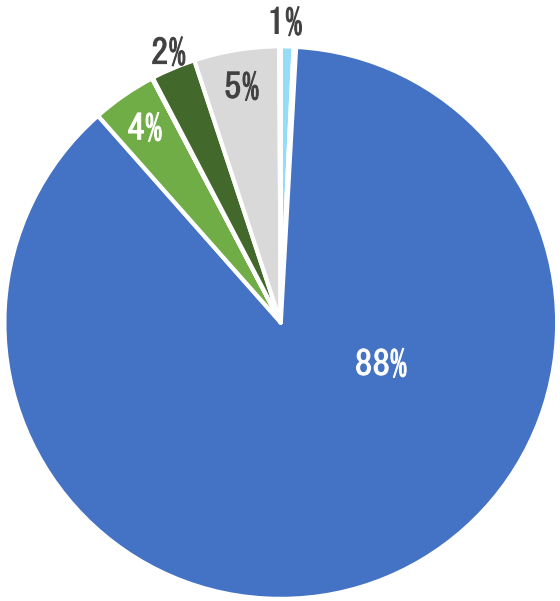
医療型（肢体）



- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝707

医療型（重心）



- 知的障害
- 自閉スペクトラム症
- 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）
- 反応性アタッチメント障害
- 重症心身障害
- 肢体不自由
- 高次脳機能障害
- 聴覚障害
- 言語障害
- 視覚障害
- 学習障害
- てんかん
- その他
- 不明

N＝1,769

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１１．入所児童の重複する障害【福祉型】

主たる障害＼従たる障害	知的障害	自閉スペクトラム症	注意欠如多動性障害ADHD	反応性愛着障害	重症心身障害	肢体不自由	高次脳機能障害	聴覚障害	言語障害	視覚障害	学習障害	てんかん	統合失調症	鬱病	適応障害	その他
知的障害		1488	533	148	14	78	5	24	13	18	31	306	9	2	6	194
自閉スペクトラム症	255		73	7	3	1	0	4	2	0	0	19	0	0	1	16
注意欠如多動性障害（ADHD）	58	31		8	0	1	0	0	0	1	1	6	0	1	0	9
反応性アタッチメント障害	15	8	5		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
重症心身障害	14	1	4	0		0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0
肢体不自由	59	2	3	0	0		0	0	2	4	0	18	0	0	0	8
高次脳機能障害	3	0	2	0	0	0		1	0	0	0	2	0	0	0	0
聴覚障害	15	3	3	1	0	1	0		0	0	0	1	0	0	0	4
言語障害	3	1	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	0	0	0
視覚障害	26	1	0	0	0	1	0	0	3		0	7	0	0	0	0
学習障害	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
てんかん	27	15	1	2	1	2	0	0	0	0	0		0	0	0	2
その他	51	8	4	2	1	0	0	2	1	1	0	1	0	0	0	4
不明	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

N＝4,835人

１１．入所児童の重複する障害【医療型】

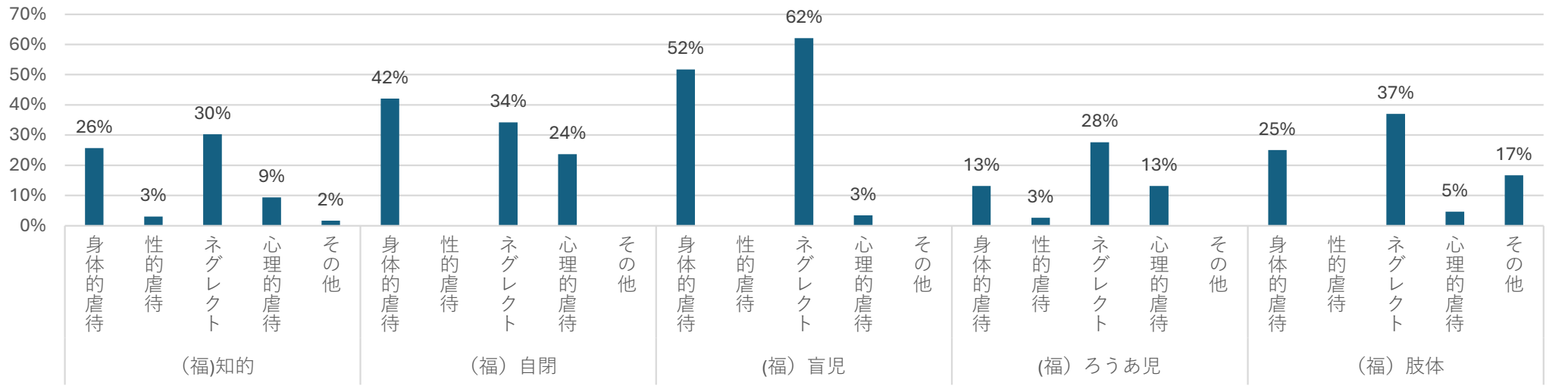
主たる障害＼従たる障害	知的障害	自閉スペクトラム症	注意欠如多動性障害ADHD	反応性愛着障害	重症心身障害	肢体不自由	高次脳機能障害	聴覚障害	言語障害	視覚障害	学習障害	てんかん	統合失調症	鬱病	適応障害	その他
知的障害		11	0	3	80	49	2	2	2	0	1	11	0	0	0	7
自閉スペクトラム症	6		1	0	1	2	0	1	1	0	1	2	0	0	1	0
注意欠如多動性障害（ADHD）	2	1		0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
反応性アタッチメント障害	0	0	2		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
重症心身障害	587	14	1	0		409	2	44	215	99	56	717	1	6	4	95
肢体不自由	211	13	8	0	54		2	8	18	3	0	76	1	0	0	19
高次脳機能障害	2	0	0	0	5	0		0	0	1	0	0	0	0	0	0
聴覚障害	0	0	0	0	2	3	0		0	0	0	0	0	0	0	0
言語障害	0	0	0	0	23	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
視覚障害	0	0	0	0	12	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
学習障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0
てんかん	11	0	2	0	126	8	1	3	0	0	0		0	0	1	16
その他	23	2	3	1	3	7	0	0	2	1	2	12	0	0	0	18
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

N＝2,613

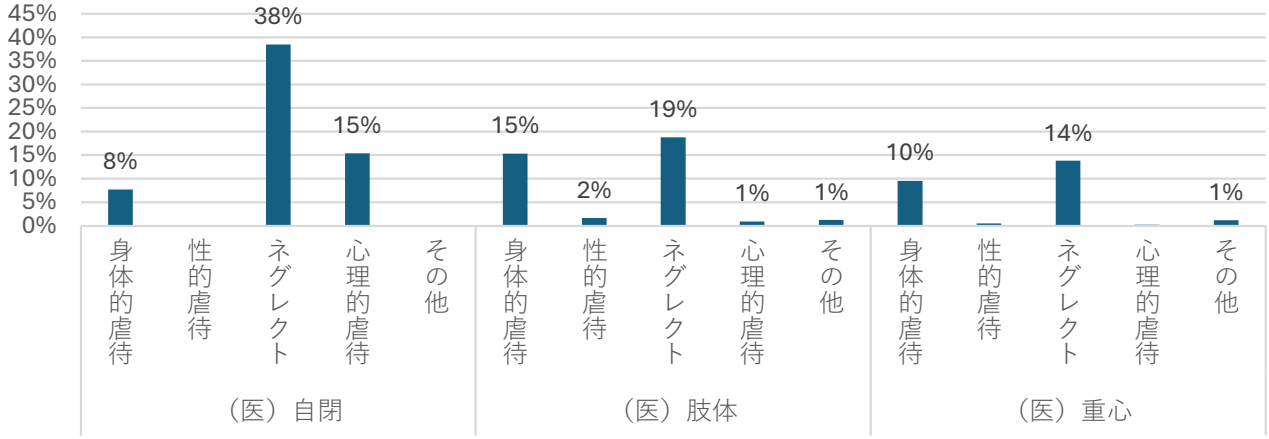
１２．被虐待児の虐待経験の種類

福祉型障害児入所施設



N＝5265

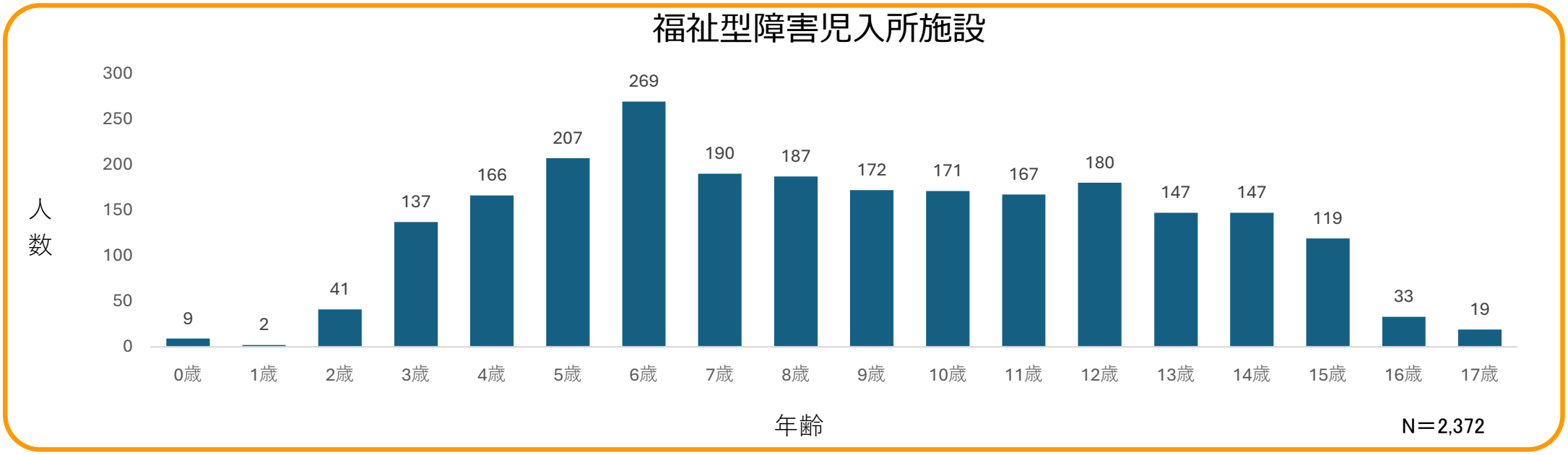
医療型障害児入所施設

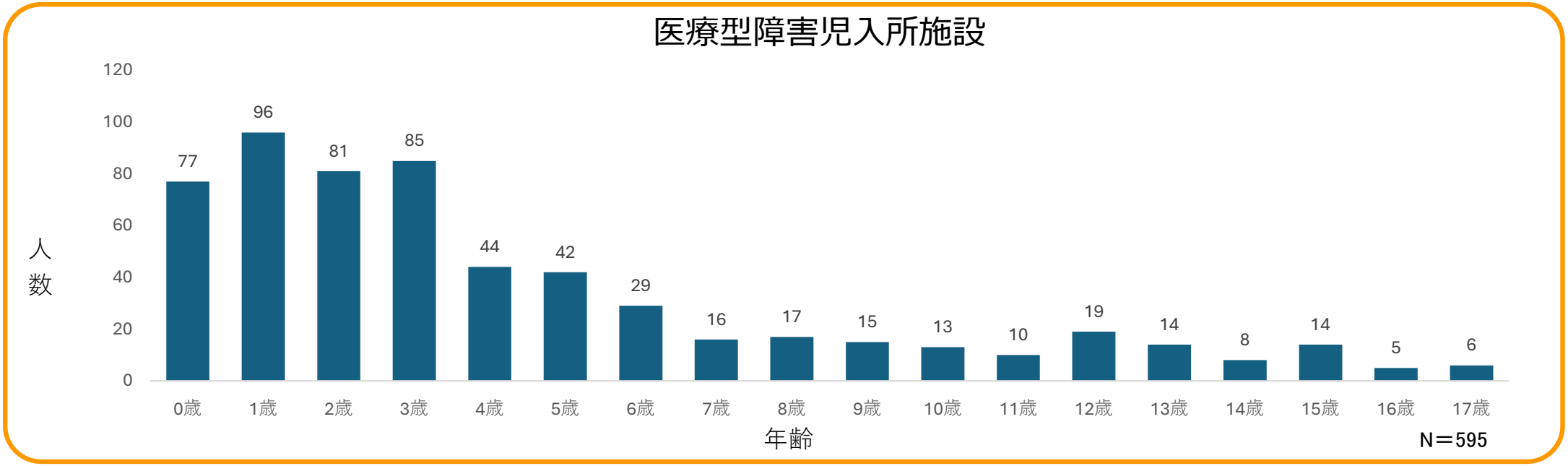


N＝2,613

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

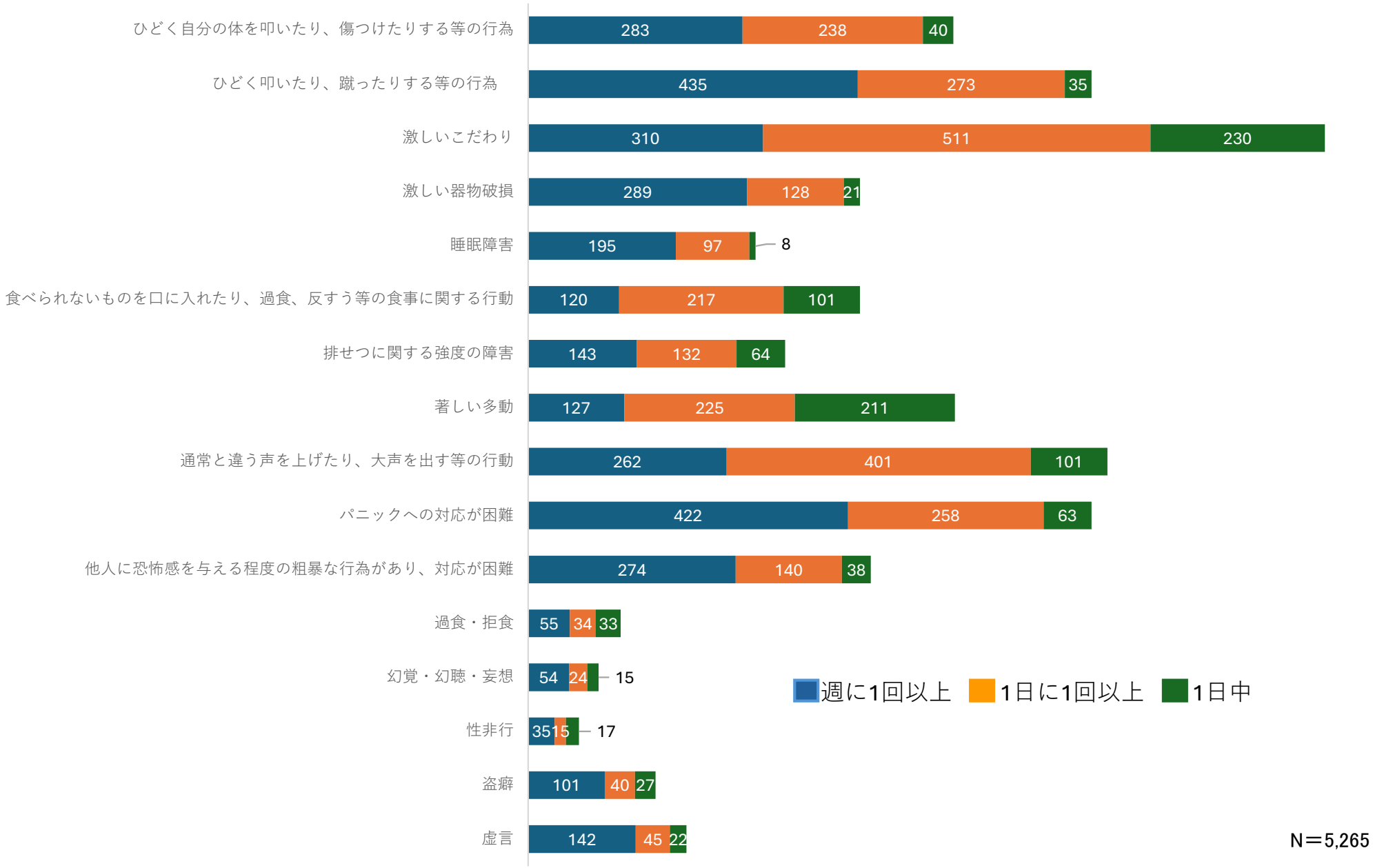
１３．被虐待児の入所時の年齢





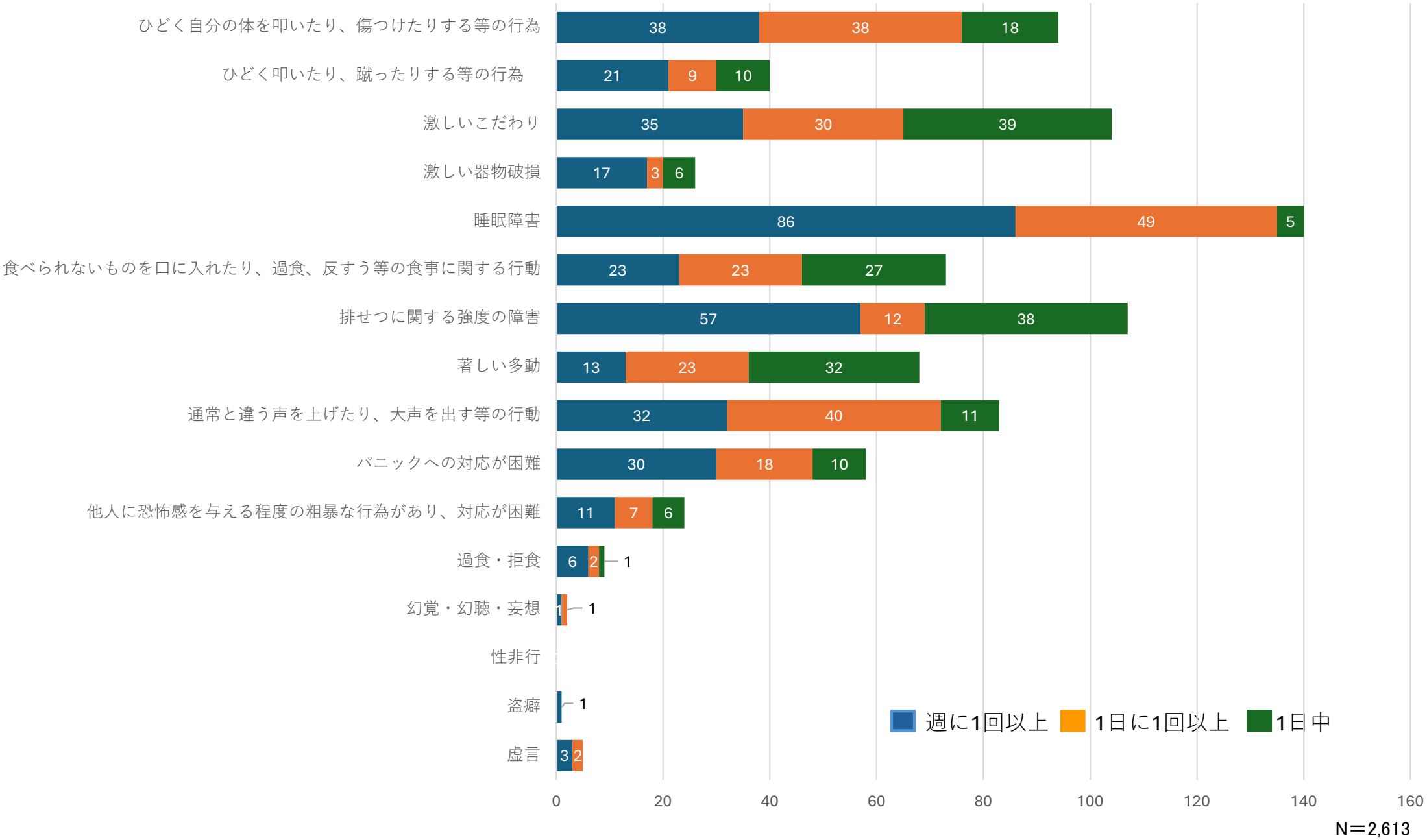
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【福祉型】



出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【医療型】

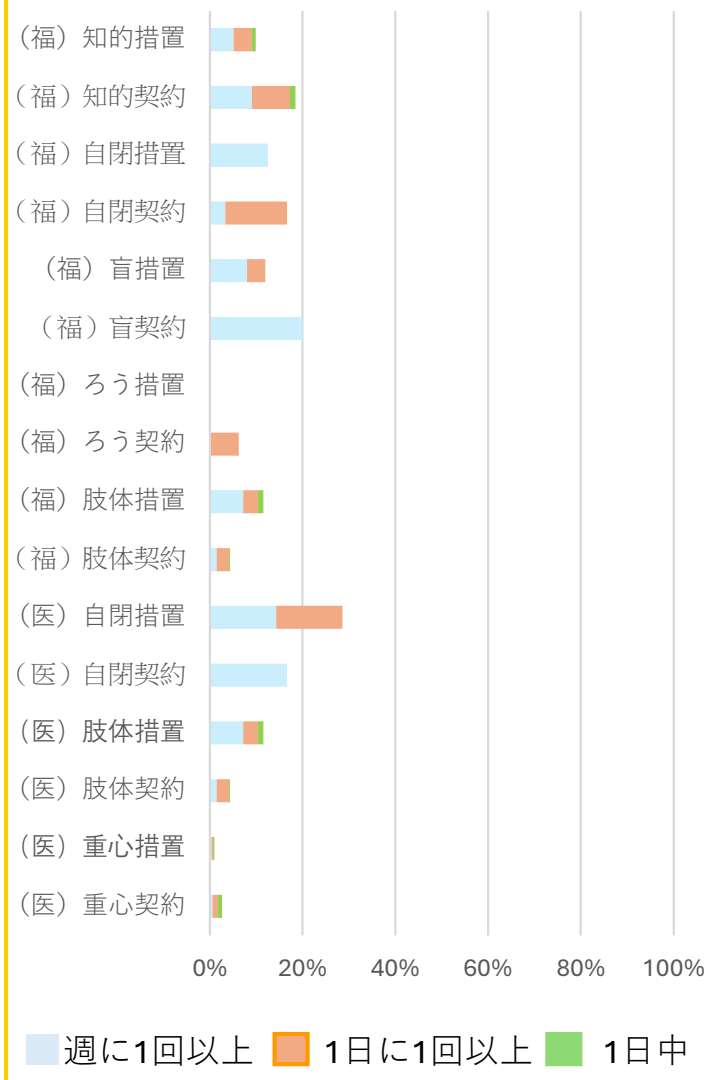


N＝2,613

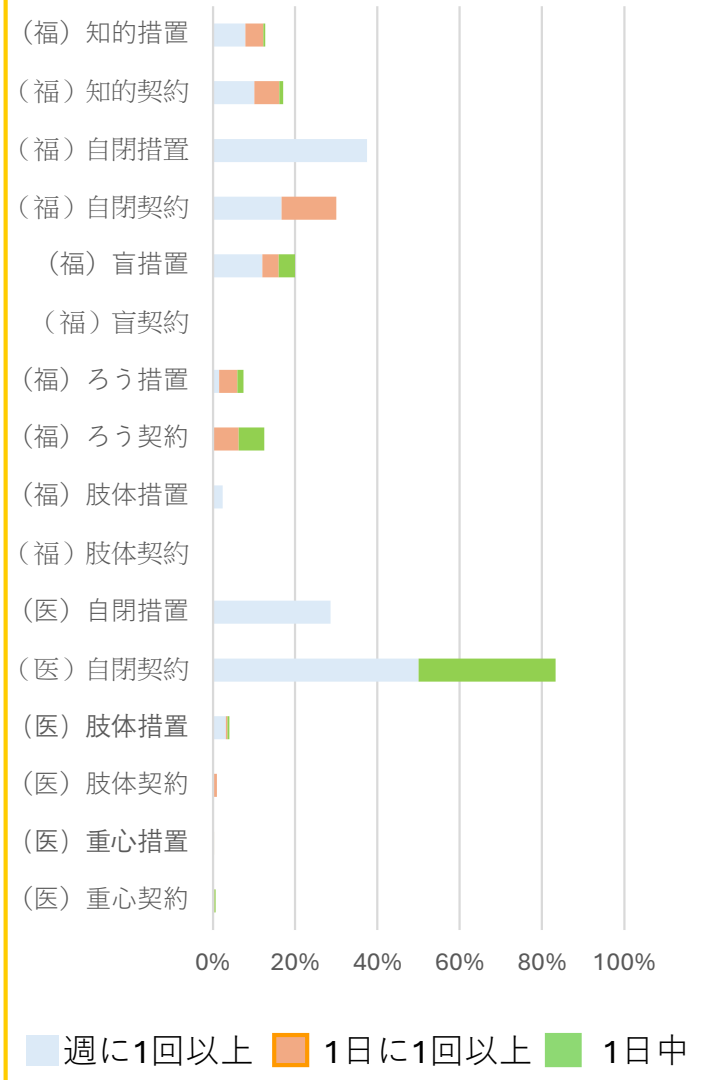
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【詳細】

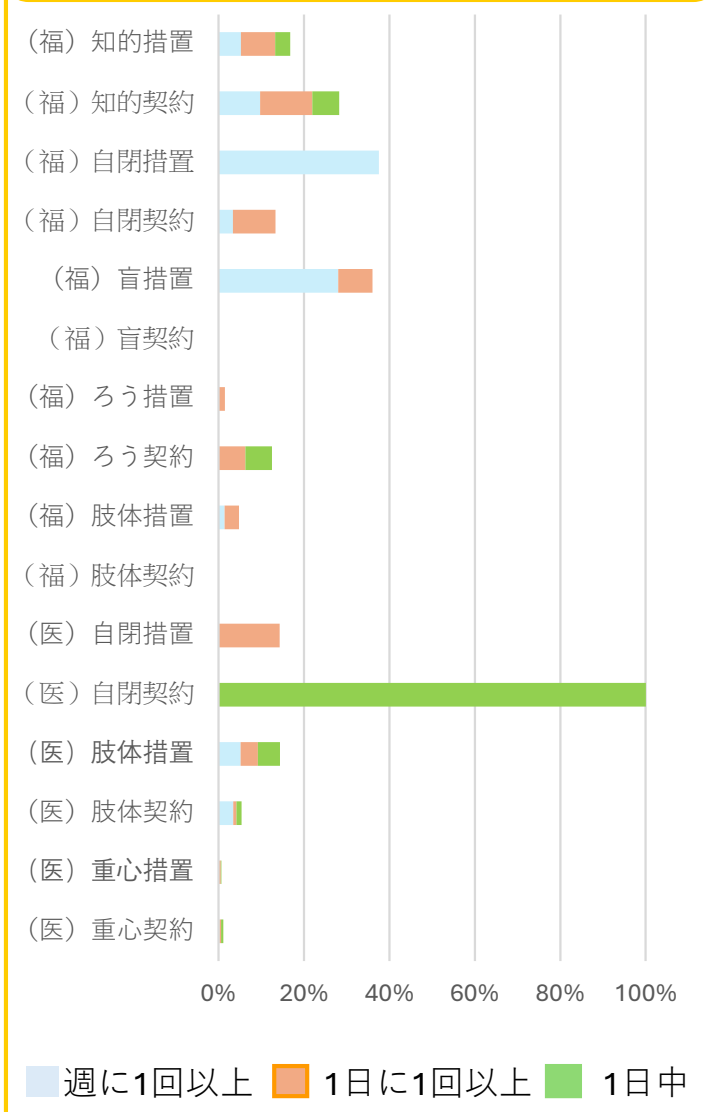
①ひどく自分の体を叩いたり傷つけたりする等の行為



②ひどく叩いたり、蹴ったりする等の行為



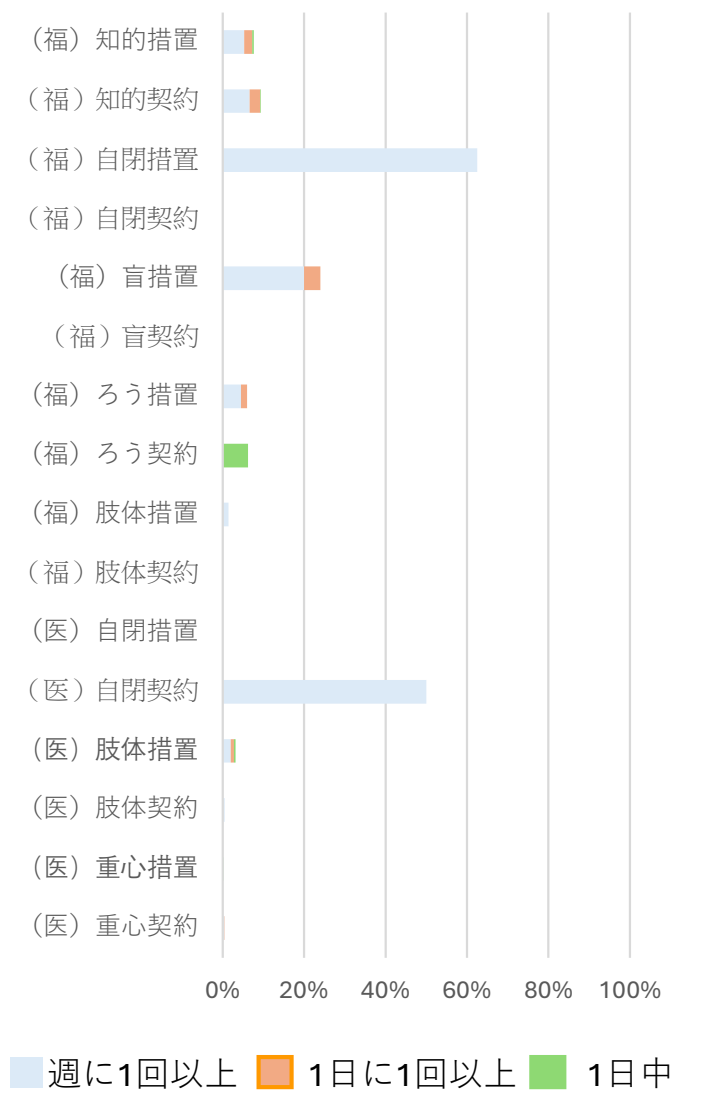
③激しいこだわり



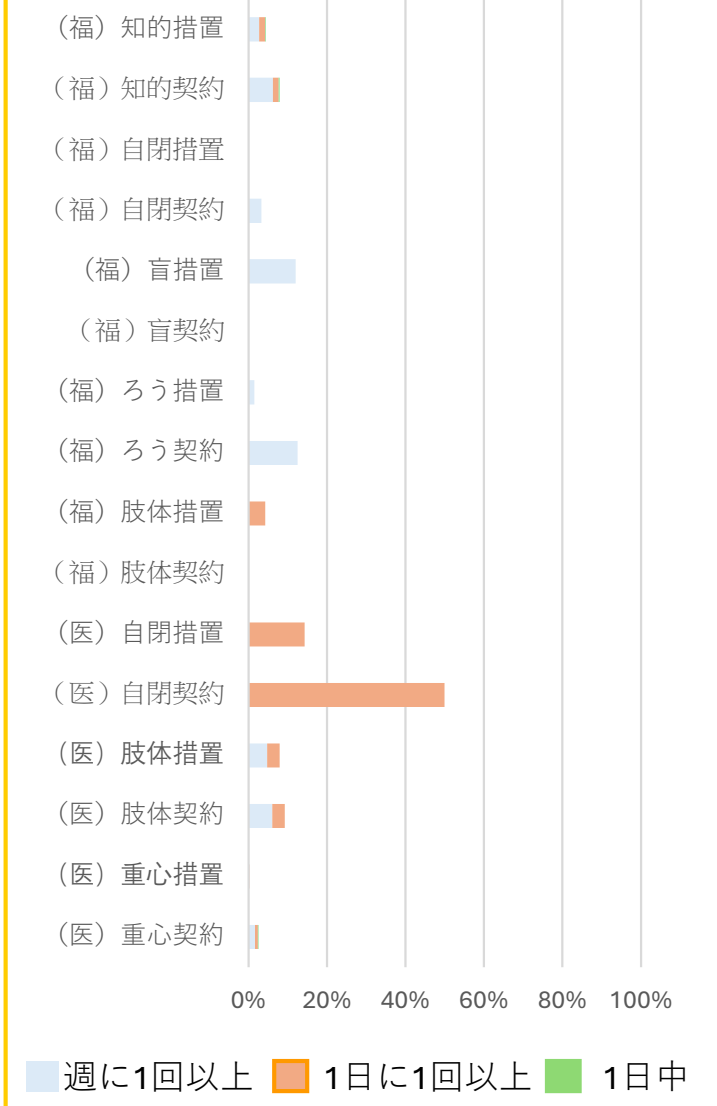
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【詳細】（続き）

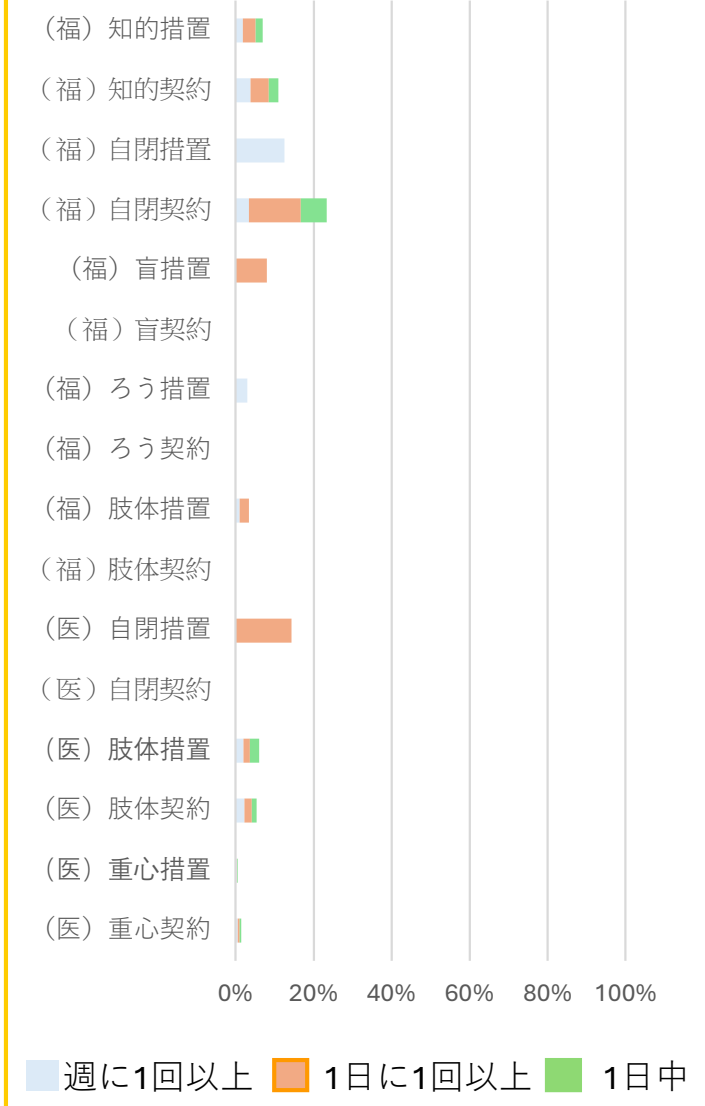
④激しい器物破損



⑤睡眠障害



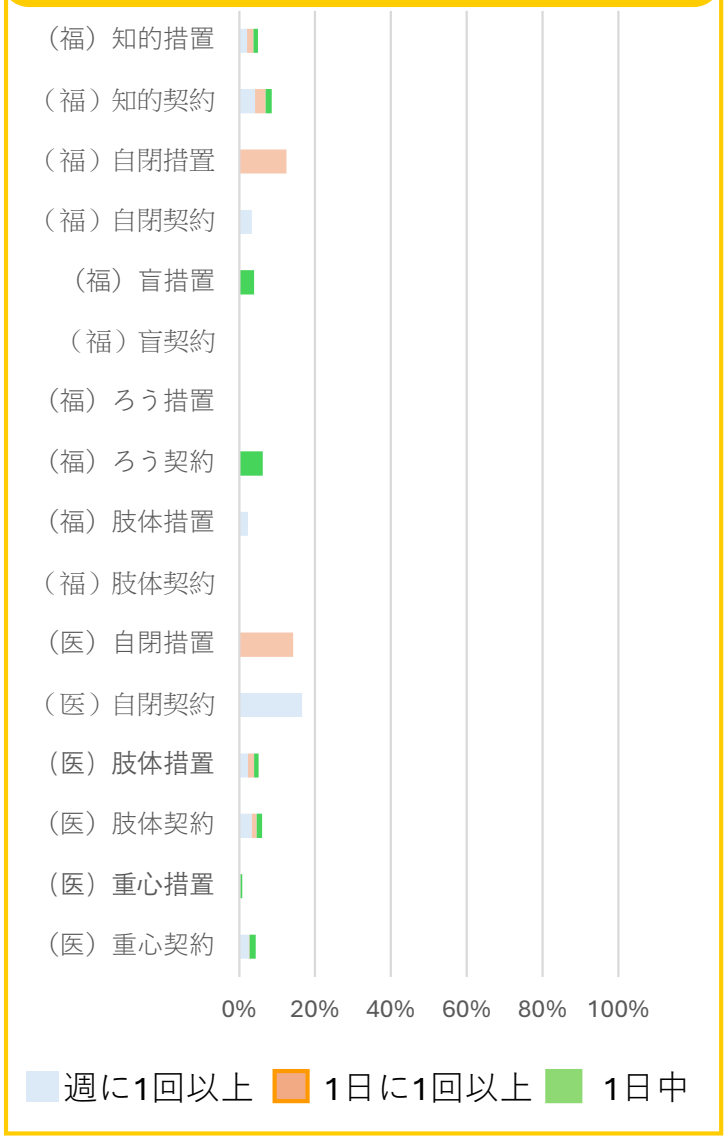
⑥食べられないものを口に入れたり、過食、反すう等の食事に関する行動



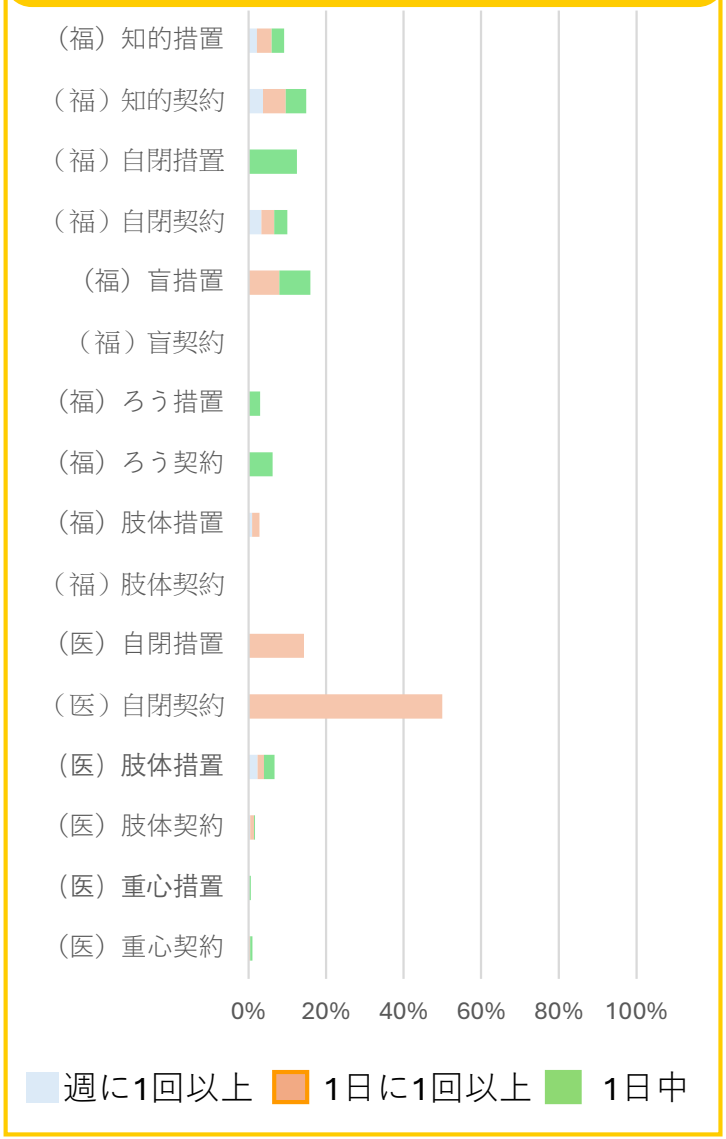
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【詳細】（続き）

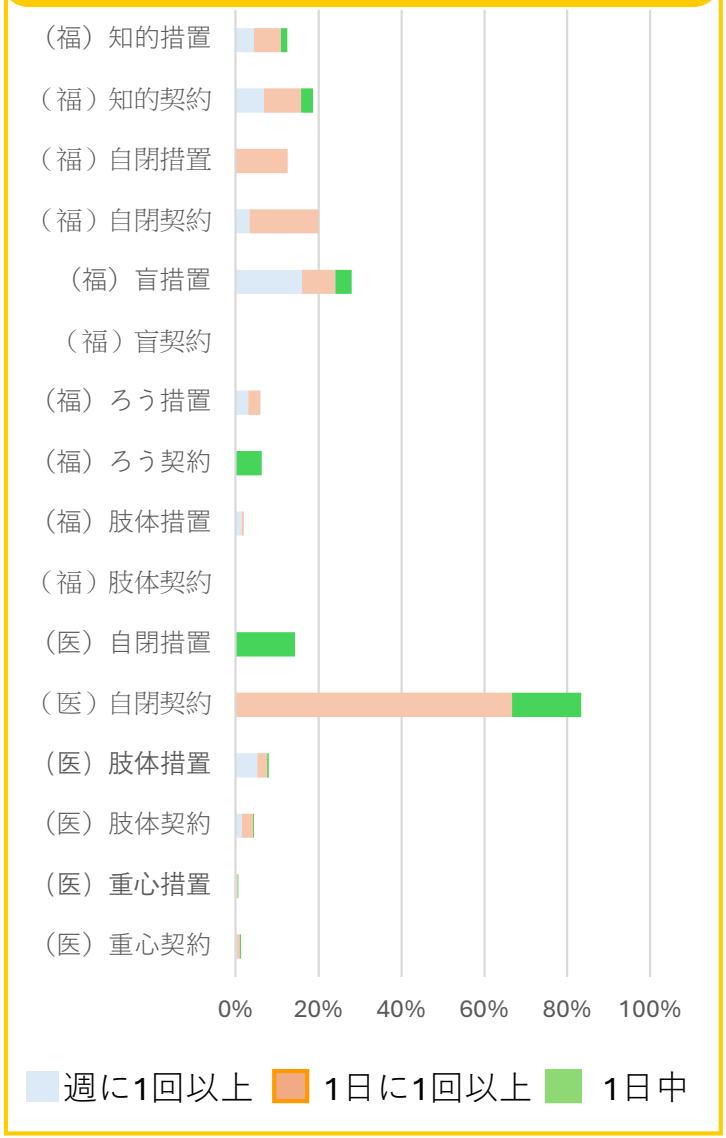
⑦排せつに関する強度の障害



⑧著しい多動



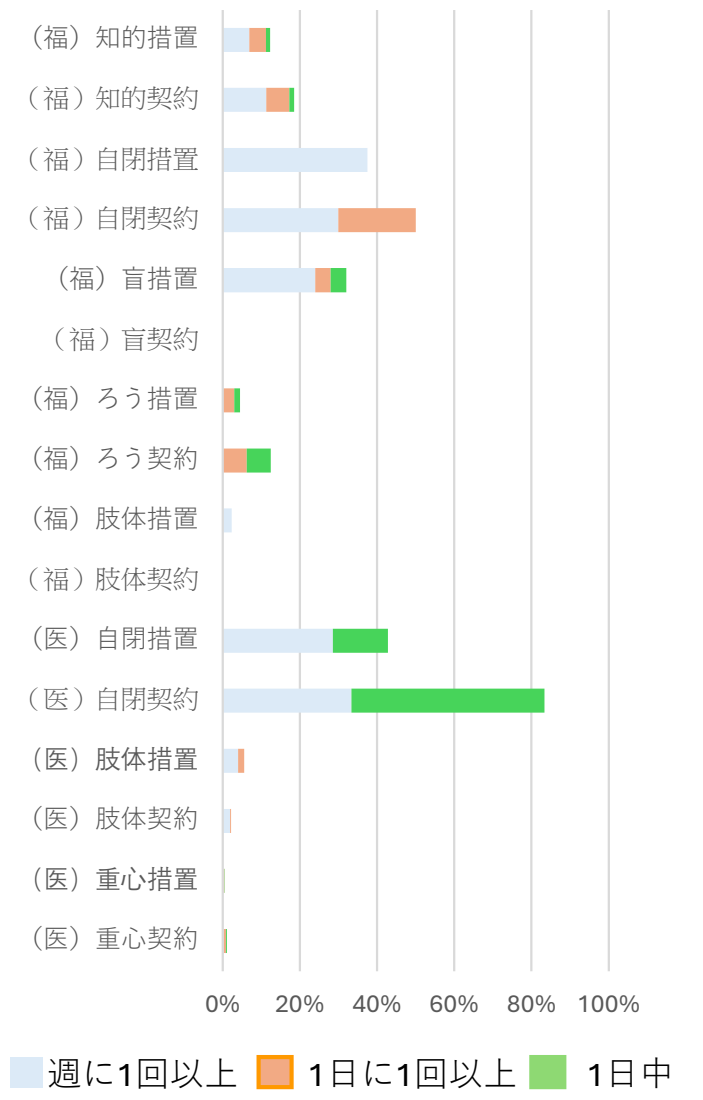
⑨通常と違う声を上げたり、大声を出す等の行動



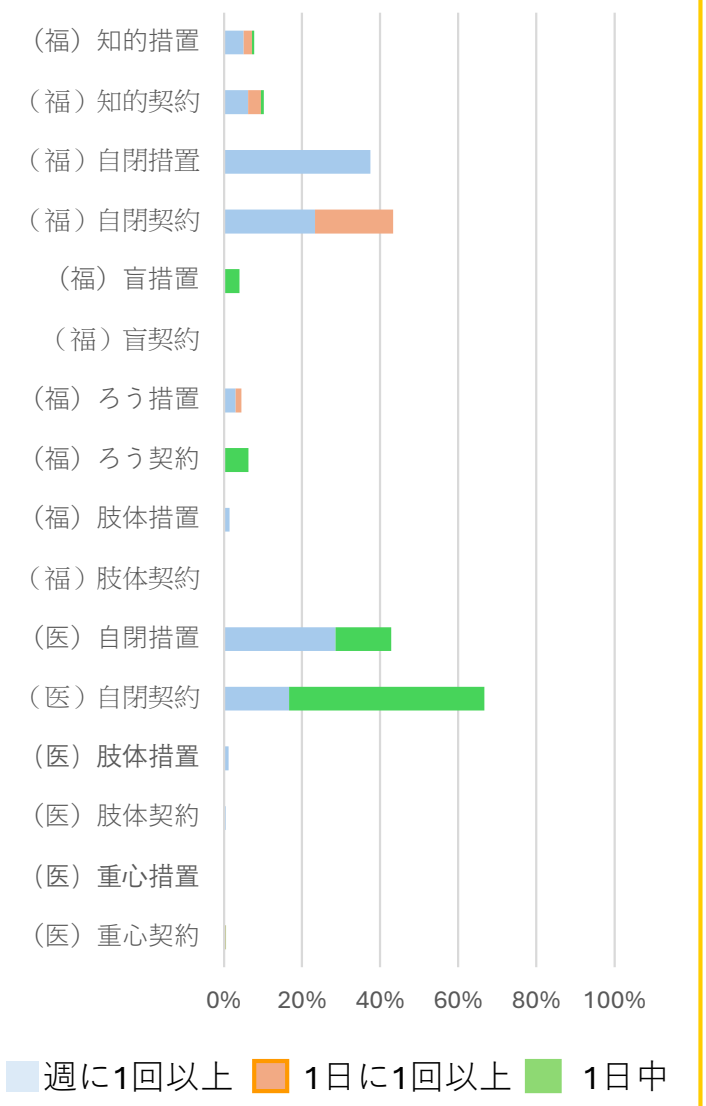
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【詳細】（続き）

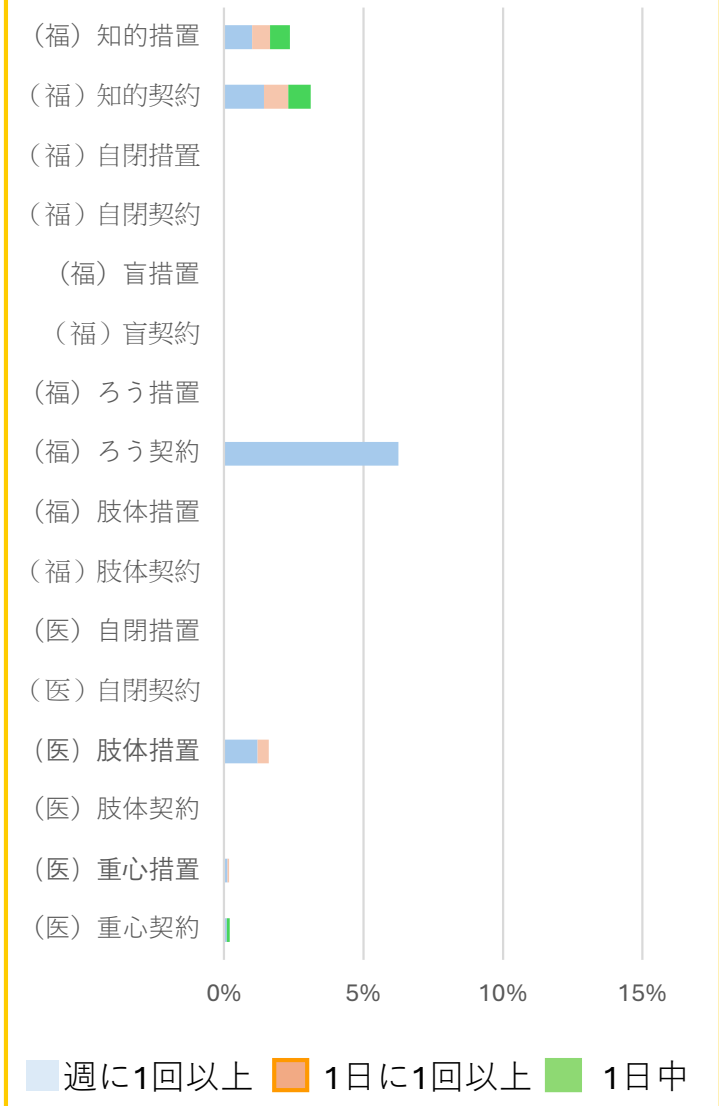
⑩パニックへの対応困難



⑪他人に恐怖感を与える程度の粗暴な行為があり、対応が困難



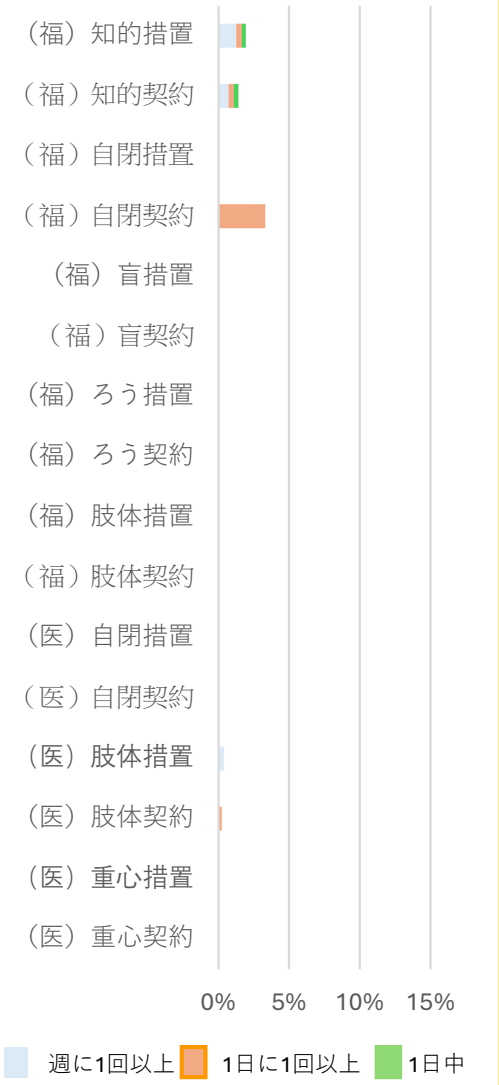
⑫過食・拒食



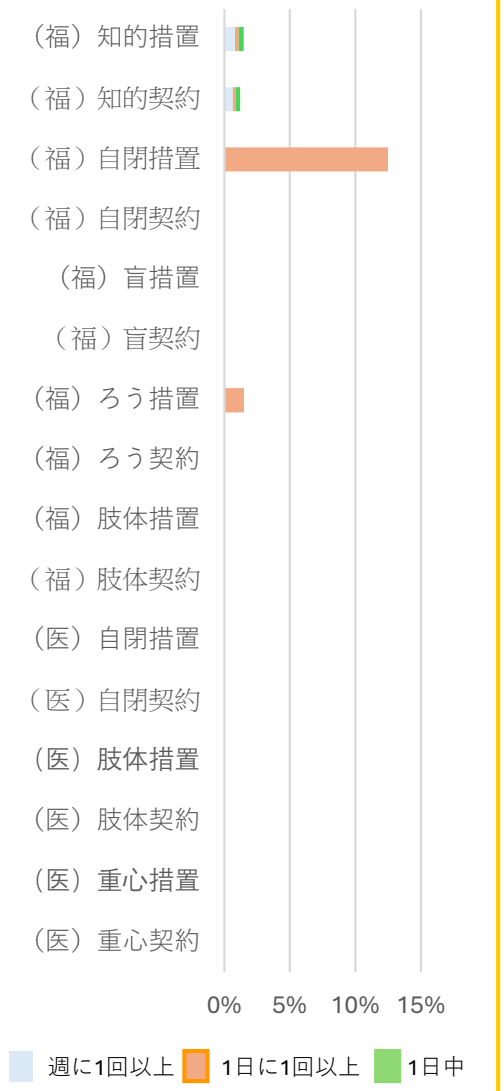
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１４． 入所児童で特に支援が必要な行動と頻度別児童数【詳細】

⑬幻覚・幻聴・妄想



⑭性非行



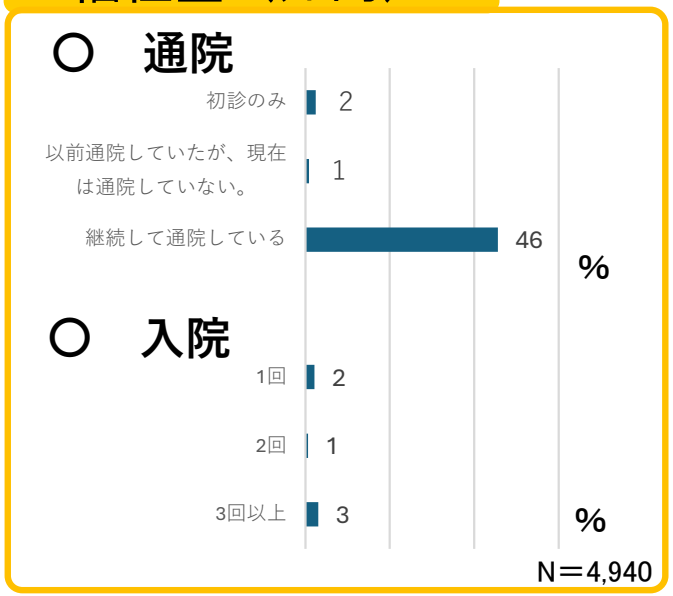
⑮盗癖

⑯虚言

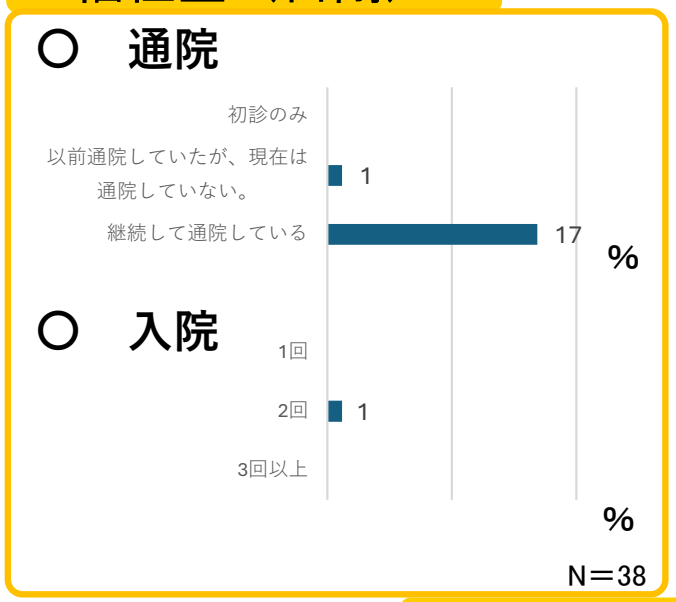
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１５． 入所児童で心理的なことを背景とした小児科、心療内科、児童精神科、精神科等の医療機関への通院、入院がある児童割合【福祉型】

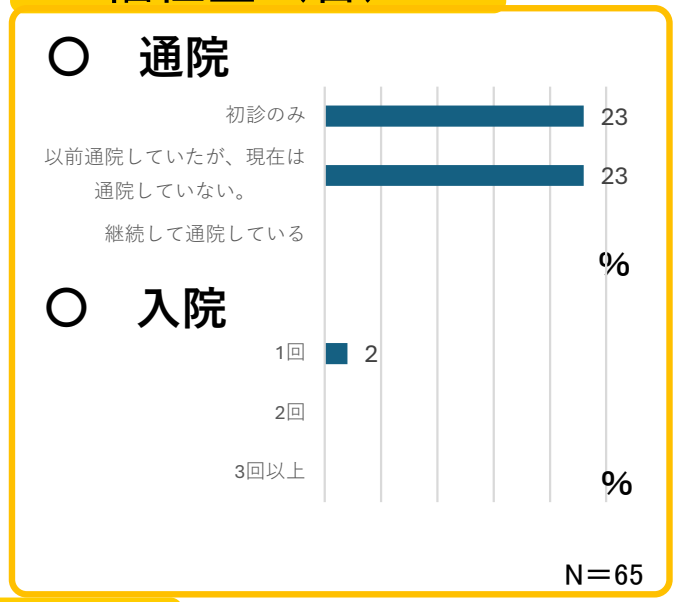
福祉型（知的）



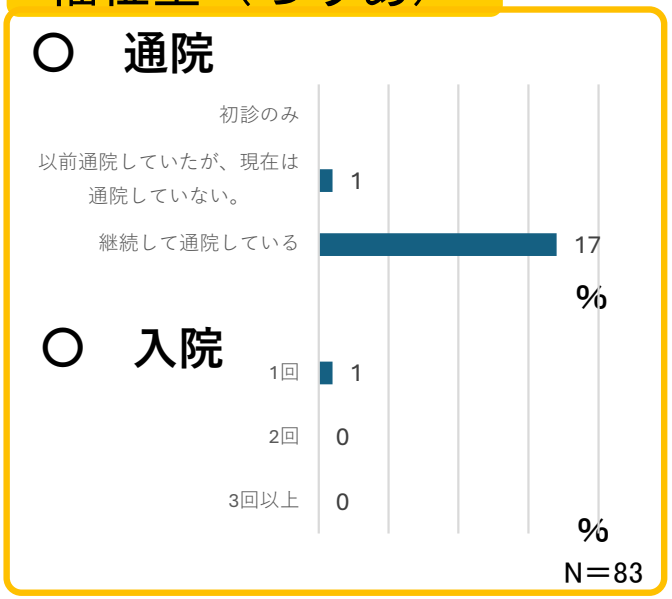
福祉型（自閉）



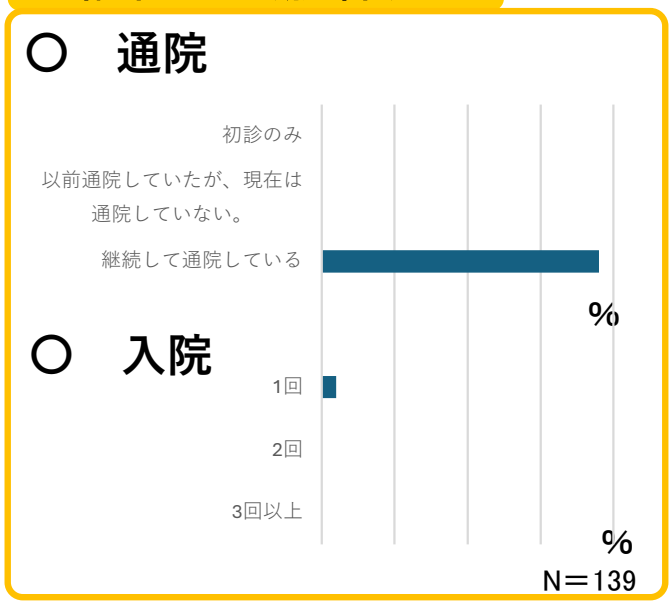
福祉型（盲）



福祉型（ろうあ）



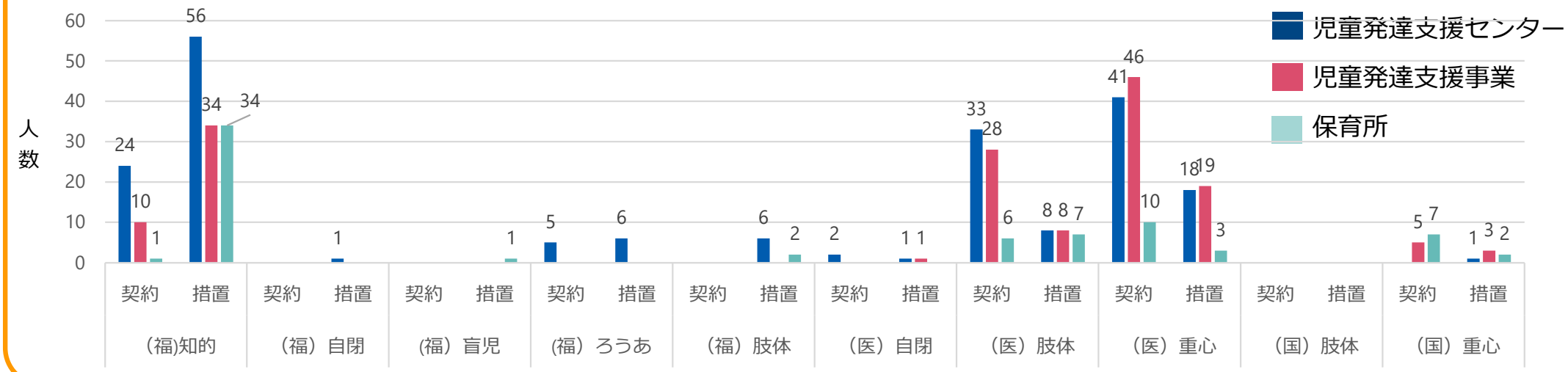
福祉型（肢体）



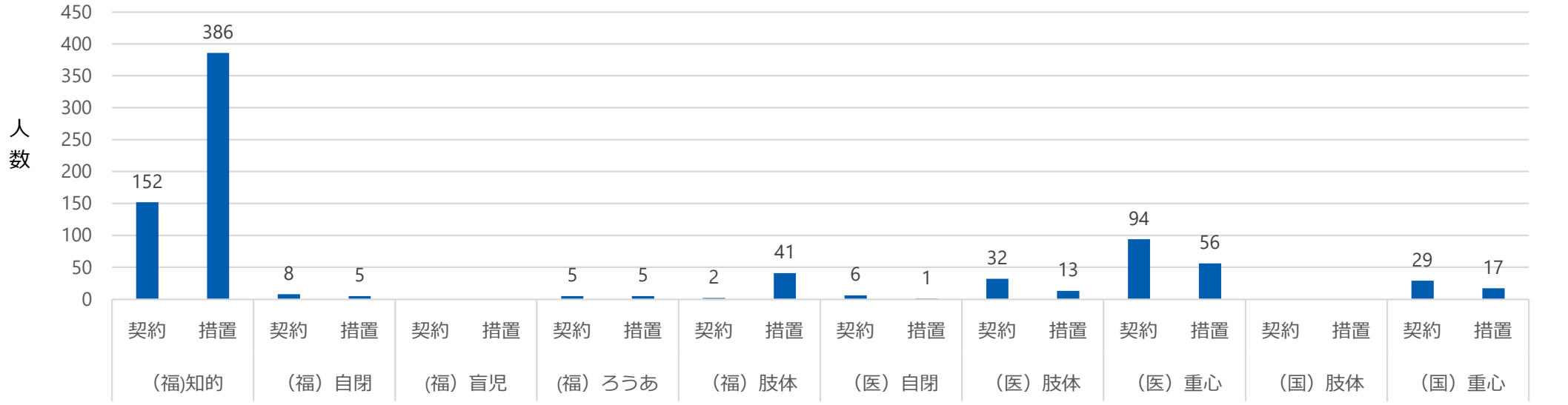
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１６．障害児通所支援事業等の利用希望について

児童発達支援センター・児童発達支援事業・保育所



放課後等デイサービス



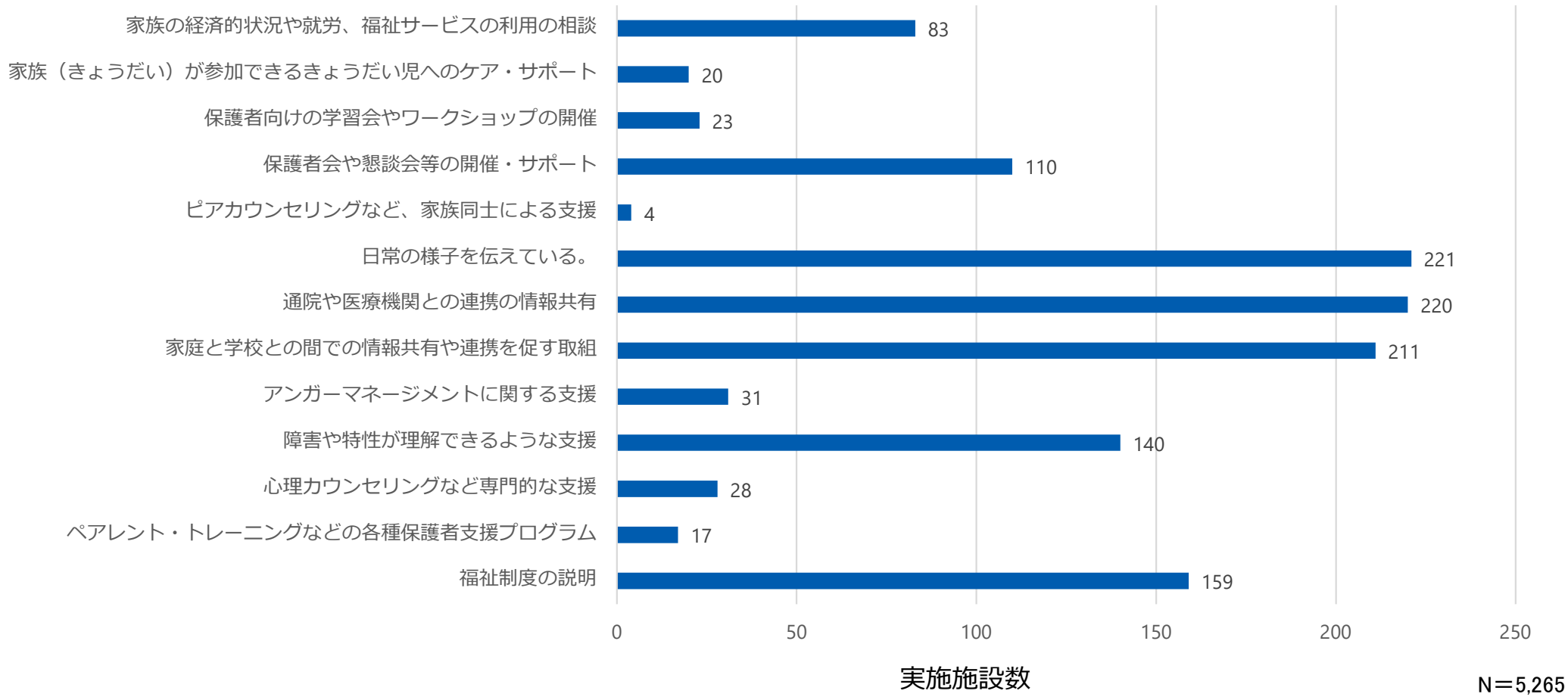
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１７．家族支援に資する取組の有無【福祉型】

現状

○ 福祉型では、日常の様子を伝えている、通院や医療機関との連携の情報提供、学校と家庭との間での情報提供や連携を促す取組についてを多くの施設が実施している。

○ 一方、心理的な専門的な支援、ペアレント･トーニング、ピアカウンセリング、きょうだい児へのサポートを実施している施設は少ない現状である。

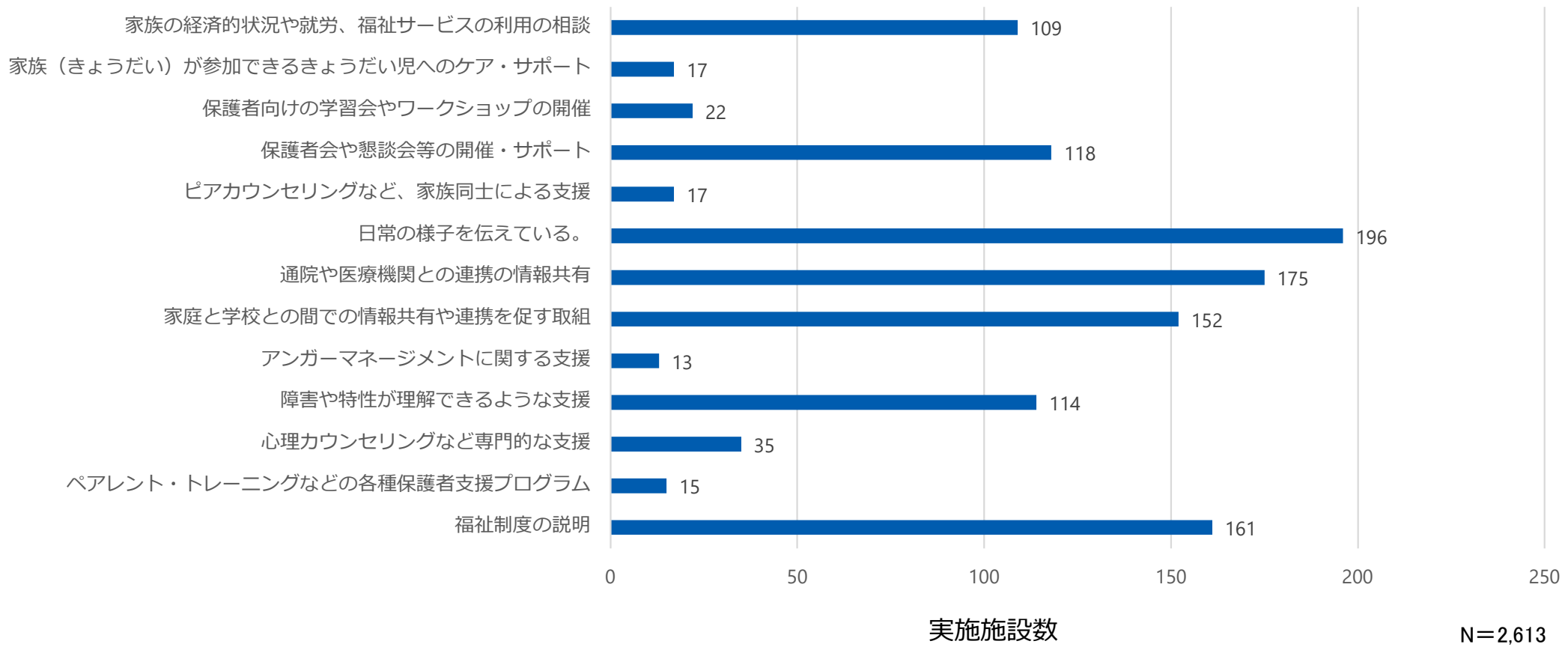


出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１７．家族支援に資する取組の有無【医療型】

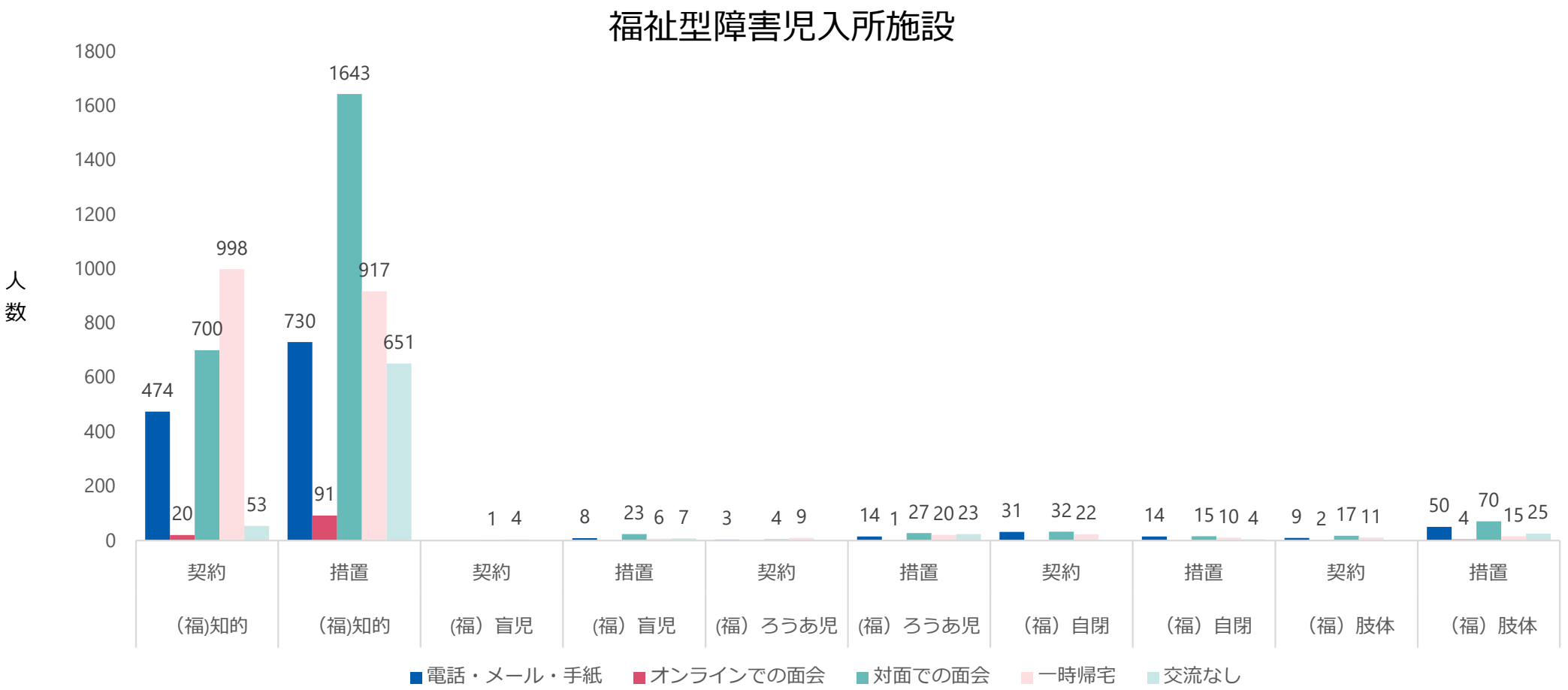
現状

○ 医療型では、日常の様子を伝えている、通院や医療機関との連携の情報提供、福祉制度の説明、学校と家庭との間での情報提供や連携を促す取組については多くの施設が実施している。
○ 一方、ペアレント･トーニング、ピアカウンセリング、きょうだい児へのサポートを実施している施設は少ない現状となっている。



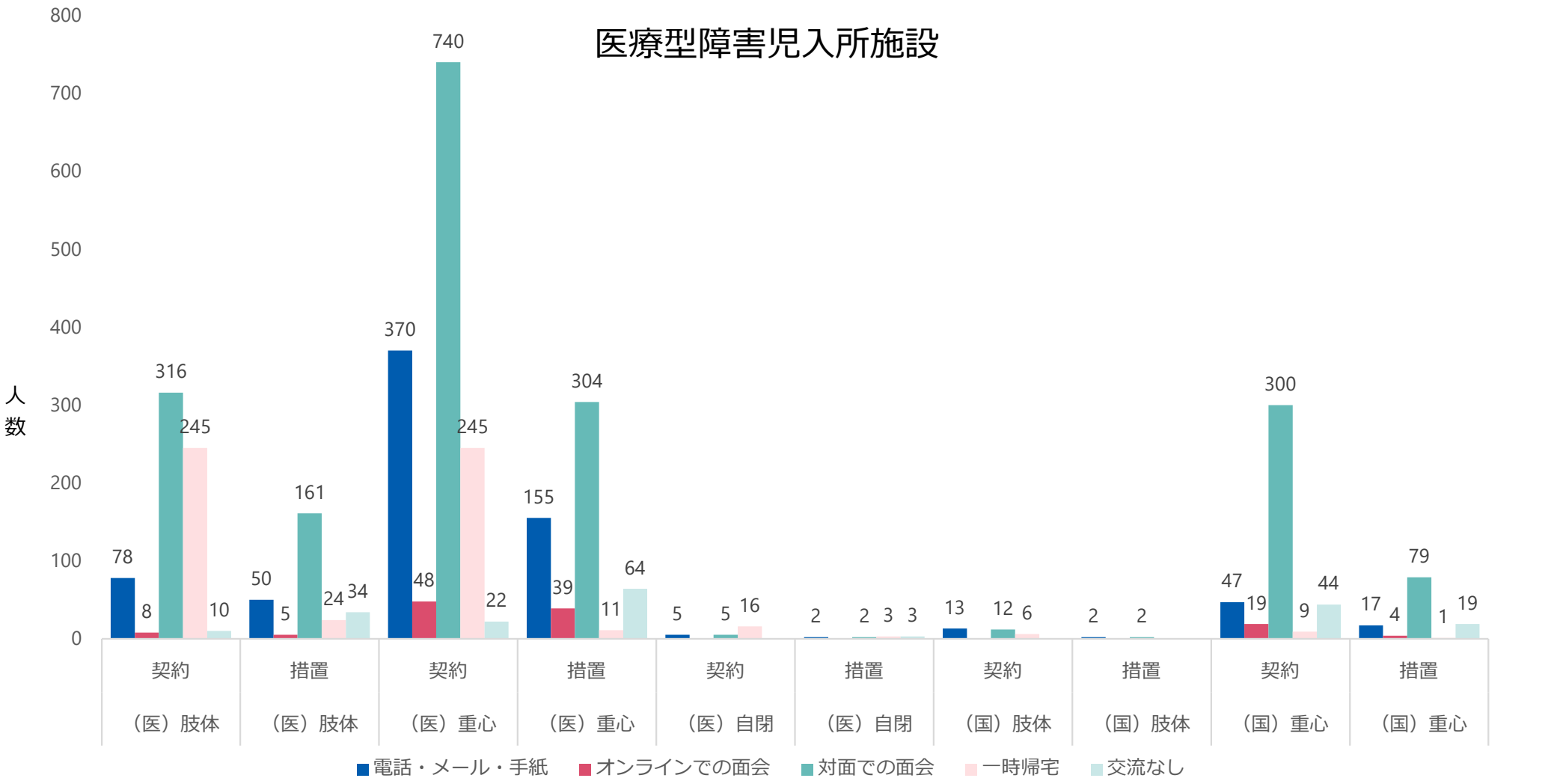
出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１８．家族との面会・電話等の交流の取組における実施人数【福祉型】



出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１８．家族との面会・電話等の交流の取組における実施人数【医療型】



出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

１９．外泊が出来ない児童数とその理由

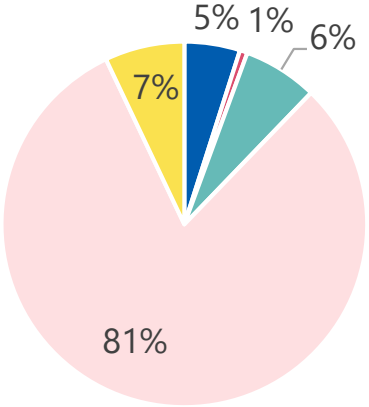
現状

○　福祉型、医療型共に外泊できない理由として、家庭の事情で帰宅できない割合が多くなっている。

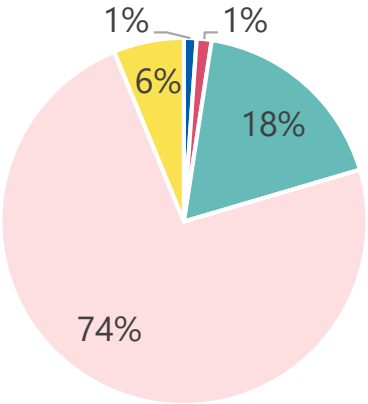
福祉型障害児入所施設

	措置	契約
外泊できない児童数	2511	528

外泊できない理由（措置）



外泊できない理由（契約）

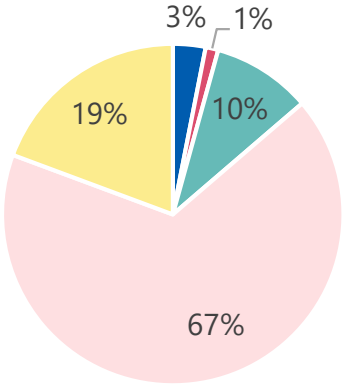


- 親がいない
- 地理的条件
- 本人の事情で帰宅できない
- 家庭の事情で帰宅できない
- その他

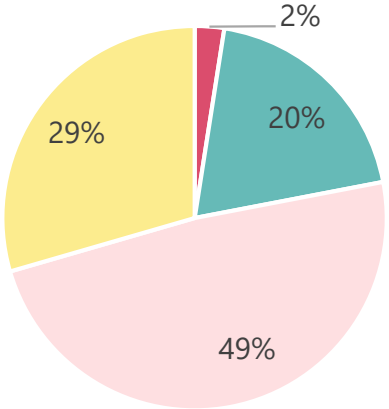
医療型障害児入所施設

	措置	契約
外泊できない児童数	834	1151

外泊できない理由（措置）



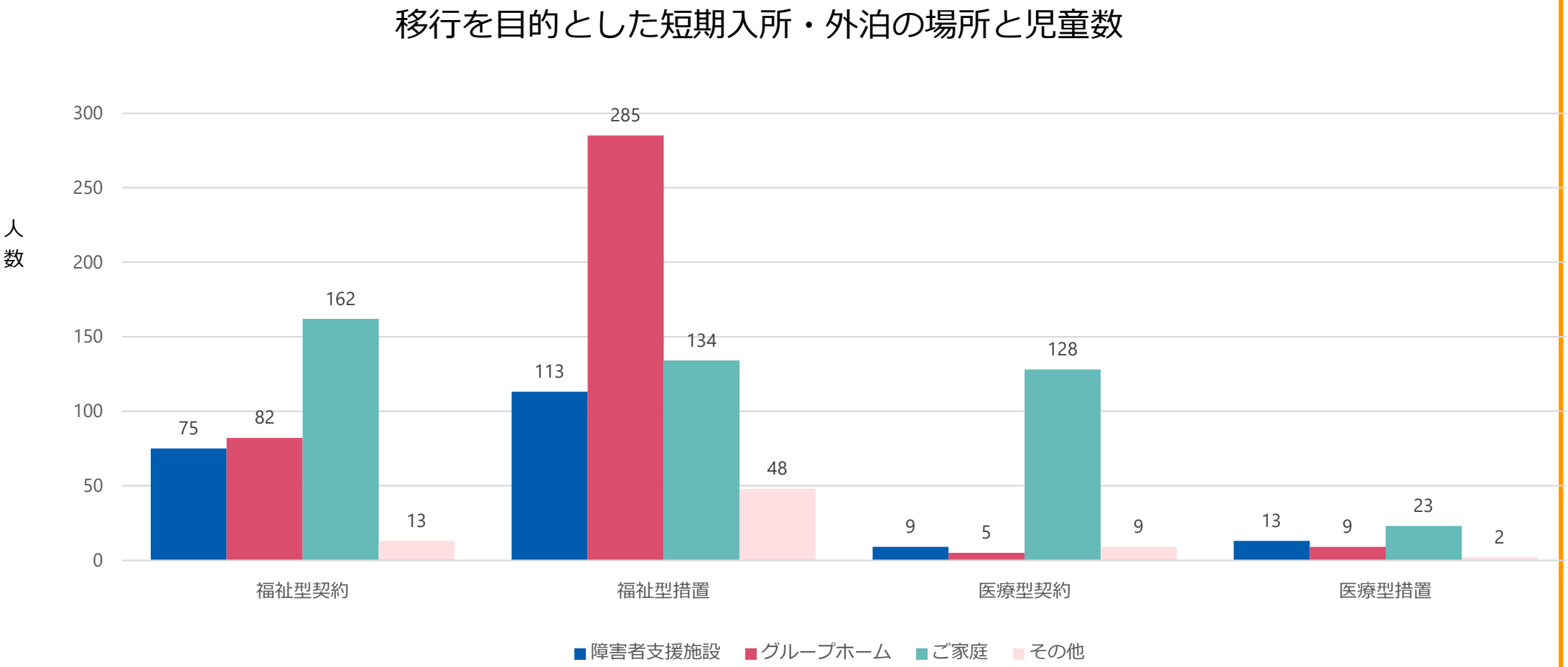
外泊できない理由（契約）



- 親がいない
- 地理的条件
- 本人の事情で帰宅できない
- 家庭の事情で帰宅できない
- その他

出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

２０．移行を目的とした短期入所・外泊の場所と児童数

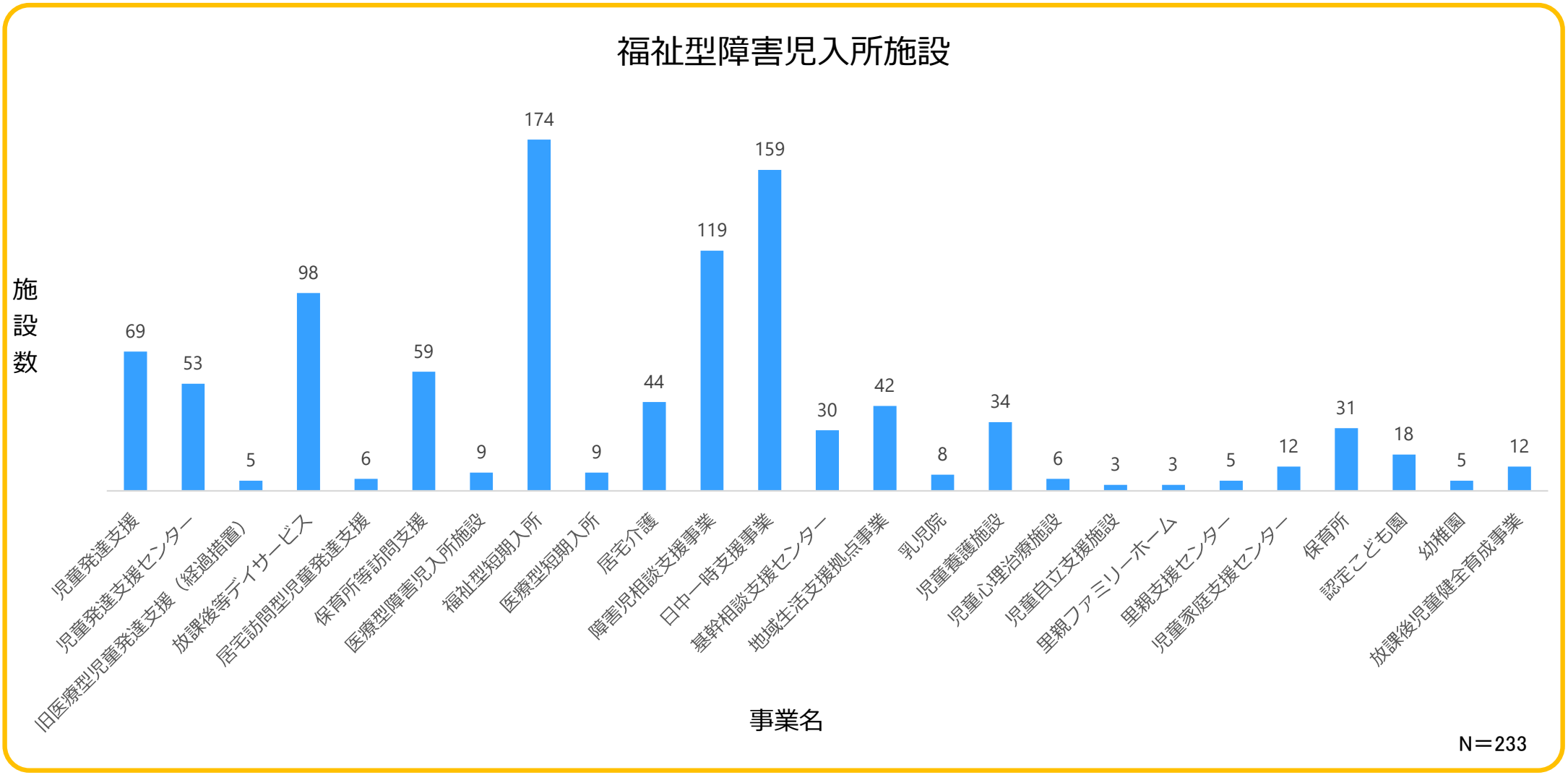


出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

２１． 障害児入所施設が併設、または障害児入所施設を運営する法人が実施している事業【福祉型】

現状

○ 福祉型短期入所、日中一時支援事業を実施している施設が多い。
○ 児童発達支援、児童発達支援センター、放課後等デイサービス等の障害児通所支援事業を実施している施設も一定数ある。

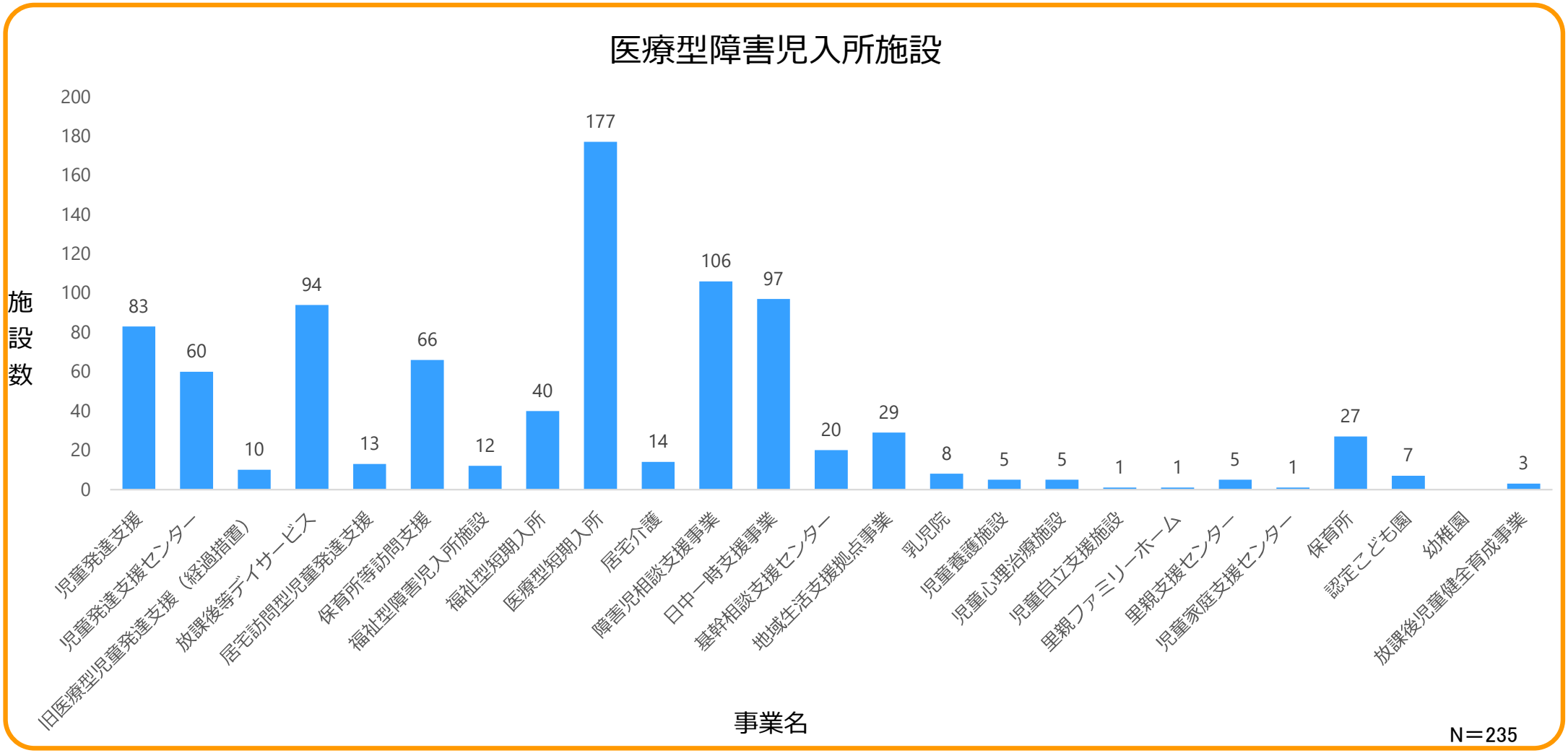


出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）

２１．障害児入所施設が併設、または障害児入所施設を運営する法人が実施している事業【医療型】

現状

○ 医療型短期入所を実施している施設が多い。
○ 児童発達支援、児童発達支援センター、放課後等デイサービス等の障害児通所支援事業を実施している施設も一定数ある。



出典：こども家庭庁支援局障害児支援課調べ（令和7年4月1日時点）